

2 0 0 1

授業概要

【シラバス】

保育科

白梅学園短期大学

SHIRAME GAKUEN COLLEGE

目次 (保育科)

教養教育科目 (1年)	1
文学・フィクションと人間	3
王朝文学の世界	4
話し言葉の文芸	5
西洋文学	6
近代日本の歴史	7
西洋史概説	8
東洋美術	9
演劇論	10
現代社会論	11
現代家族論	12
日本国憲法	13
市民生活と法	14
政治学入門	15
生活の経済学	16
心理学入門	17
マスコミュニケーション概論	18
現代社会と女性	19
自然科学史	20
生命の科学	21
生物と環境	22
生活の科学	23
健康の生理学	24
宇宙と地球	25
総合科目 人間	26~28
情報処理入門	29~33
総合英語 I-1、2	34~40
海外語学研修	41
スポーツ(テニス)	42
スポーツ(バドミントン)	43
スポーツ(バレーボール)	44・45
スポーツ(ダンス)	46
スポーツ(トランポリン)	47
健康科学	48
スポーツ科学	49
専門教育科目 (1年)	51
社会福祉概論	53
児童福祉	54
保育原理 I	55・56
保育者論	57
教育原理	58・59
発達心理学 I	60
発達心理学 II	61
教育心理学	62
小児保健 I	63
小児栄養	64
保育内容総論	65
保育内容 健康(保健行動)	66
保育内容 言葉 I (言語行動)	67

乳児保育 I	68
音楽 I (基礎理論)	69
音楽 I (ピアノ)	70
音楽 I (声楽)	71
図画工作 I	72
ゼミナール I	73
幼稚園実習	74
実習指導 (保育所実習 I)	75
保育所実習 I	76
専門教育科目 (2年)	77
社会福祉方法論	79
保育原理 II	80
養護原理 I	81
養護原理 II	82
小児保健 II	83
小児保健実習	84~86
小児栄養実習	87
精神保健	88
教育課程総論	89
保育内容 人間関係(社会行動)	90
保育内容 環境 I (自然認識)	91
保育内容 表現 I (文化行動)	92~94
保育内容 環境 II	95・96
保育内容 言葉 II	97
保育内容 表現 II	98~100
保育計画法	101・102
幼児教育の方法	103
乳児保育 II	104
養護内容	105
保育臨床相談	106
障害児保育	107
家庭管理	108
音楽 I (ピアノ)	109
音楽 I (声楽)	110
音楽 II (ピアノ)	111
音楽 II (うた)	112
音楽 II (ギター)	113
図画工作 II	114
体育 I	115
体育 II	116
ゼミナール II	117~133
幼稚園実習	134
実習指導 (保育所実習 II)	135
保育所実習 II	136
実習指導 (施設実習 I・II)	137
施設実習 I	138
施設実習 II	139

教養教育科目（1年）

【授業科目】 文学・フィクションと人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>小説・映画・ドラマの中の世界は、どこにあるのか。それは我々の住んでいる「この現実」とは別の、「もう一つの別世界」である。この「別世界」の構造（しくみ）を考え、「芸術・フィクション」の秘密に迫るのが目標である。</p>	
【テキスト】 随時プリントを配布する。	
<p>-----</p> <p>【参考書】 講義中に紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>おおむね、以下のような流れで講義する。具体的作品等はプリントを使って紹介する。</p> <p>①「フィクション」について。</p> <p>例えば「小説」に書かれたことは、要するに全て「作り事」、つまり「嘘」である。映画もテレビドラマも同様である。しかしなぜ、我々はそんな「嘘」に感動したり、強い影響を受けたりするのか。――このような問題を考察する。</p> <p>②「作品世界」の構造（しくみ）について。</p> <p>「作品世界」つまり「もう一つの別世界」は、どのような「仕組み」で出来ているのか。そもそも、それは誰が「見ている」世界なのか。語っているのは「誰」なのか。少なくともそれは、いわゆる「作者」ではないはずである（例えば川端康成は「駒子」を「見る」ことは出来ない）。――このような問題から考察を始める。</p> <p>③フィクションと「現実」について。</p> <p>小説・映画・ドラマは「現実ではない」というが、では「現実」とは何なのか。何が「フィクション」で、何が「フィクション」ではないのか、の問題を考察する。</p> <p>○日本とヨーロッパの近代文学作品を中心に、美術・音楽も視野に入れた講義になる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験（ノート・プリント等、何でも参照可）。講義に基づいて書く形式。</p> <p>講義を良く聴いて、しっかりノートをとっておくこと。</p> <p>出席点を加味して、総合的に評価する。</p>	

【授業科目】 王朝文学の世界	【担当者】 久保木寿子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>日本の古典の多くが、受験文法の説明に使われるのみで、内容が知られないのは残念なことです。優れた古典は作品としての主張を持っており、現代に通じるものを必ず持っています。そのおもしろさに気づくことが、第一の目標です。そして、何が、何故おもしろいのかを検討し、文学の本質について考えたいと思います。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>岩波文庫『竹取物語』</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>随時、指示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>平安時代の『竹取物語』を取り上げます。姫はなぜ竹の中にいたのか。翁はどんな子育てをしたのか。で、姫は人間になったのか。なぜ月から追放され、よりによって人間界に来たのか。天皇を含む求婚者は、なぜ皆拒絶されたのか。知っているつもり の物語は、実は謎がいっぱい。</p> <p>I 『竹取物語』の構成と主題について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな口承の話型（化生説話、致富説話、難題婚説話、羽衣説話、地名起源説話）を組み合わせて、物語は、書くことによって、ある主題を追求していくようです。上記の疑問を解明しながら、物語のおもしろさについて考えます。 <p>II さまざまな竹取説話を知る</p> <p>『竹取物語』以外にも、様々な竹取説話が伝わっています。今昔物語、海道記、古今集注、奈良絵本、現代の絵本などから、関係の部分を見ていき、平安『竹取物語』の特徴について、あらためて考えたいと思います。</p> <p>III 参考：＜浦島太郎＞の異界について</p> <p>古く『万葉集』『風土記』などに見える話が、平安時代の漢文作品を経て、やがて謡曲や御伽草子に取られていきます。もう一つの異界（海神の国）の話を覗いてみましょう。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席重視。授業時のワンポイント・メモ、定期試験時のレポートによる。</p>	

【授業科目】 話し言葉の文芸	【担当者】 東 喜望
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>将来に資するために、口承文芸をとりあげます。</p> <p>初めに、口承文芸（昔話・伝説・神話など）を概観し、日本の代表的な話をとりあげながら、その話の淵源をたずねていきます。</p> <p>大陸や環太平洋諸地域との関連も積極的に考究していく予定です。</p>	
<p>【テキスト】 拙著『沖繩・奄美の説話と伝承』（おうふう・刊） （他に資料プリントを配り布。スライド・ビデオ等映像資料上映）</p>	
<p>【参考書】 適宜指示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p><u>講義の概要</u></p> <p>I. 序（導入）——「わが国をニッポンというのはなぜか。」・国号と環太平洋の太陽神話</p> <p>II. 口承文芸概説</p> <p>(1) 神話</p> <p>(2) 伝説</p> <p>(3) 昔話</p> <p>III. 文芸の起源</p> <p>(1) 自然と人間の意識と神観念</p> <p>(2) 「謡い」と「語り」の発生</p> <p>(3) 信仰と説話——個人レベルから国家レベルへ</p> <p>(4) 神話の発展——伝説・昔話へ。</p> <p>IV. 口承文芸の現代的意義</p>	
<p>【評価方法】 定期試験時の筆記試験。ただし、テキスト・ノート等参照可とする。</p>	

【授業科目】 西洋文学	【担当者】 衣川清子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】 最近、映画化される西洋文学作品が多いのは良質のストーリーを求めると優れた文学作品に行き着くためと、優れた文学作品が時代をこえて生き残るためであろう。一方、現代の視点と問題意識で作られた映画は、文学作品に新しい解釈をもたらすことがある。また映画化のたびに違った相貌を見せる作品もある。本講義では、比較的最近、映画化・公開された西洋文学作品を取り上げ、小説と映画との違いに着目しながら小説と映画それぞれの魅力を探る。</p>	
<p>【テキスト】 なし（プリント使用）</p>	
<p>【参考書】 必要に応じて授業中に紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>毎回一つの文学作品とそれを映画化した作品を取り上げて講義し、映画の一部を視聴し、時代を経ても色褪せない文学の魅力のありかを考えたい。</p> <p>取り上げる予定の作品：</p> <p>ウィリアム・シェイクスピア『ロミオとジュリエット』（1595年）；同映画(1968年及び1996年)</p> <p>ジェイン・オースティン『いつか晴れた日に』（1811年）；同映画(1995年)</p> <p>シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』（1847年）；同映画(1944年及び1996年)</p> <p>ナサニエル・ホーソーン『スカーレット・レター』（1850年）；同映画（1995年）</p> <p>ルイザ・メイ・オルコット『若草物語』（1868年及び1869年）；同映画(1933年、1949年及び1994年)</p> <p>ルーシー・モード・モンゴメリ『赤毛のアン』（1908年）；同映画（1985年）</p> <p>マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』（1936年）；同映画(1939年；リマスター版公開1998年)</p> <p>アリス・ウォーカー『カラーパープル』（1982年）；同映画(1985年)</p> <p>エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』（1988年）；同映画(1993年)</p> <p>ほか</p> <p>*作品は変更する場合がある。</p>	
<p>【評価方法】 平常点とレポート。</p>	

<p>【授業科目】 近代日本の歴史</p>	<p>【担当者】 平賀明彦</p>
<p>【開講期】 1年 前期</p>	
<p>【授業目標】</p> <p>日本の近代の幕開けは開国から始まった。海からのプレッシャーがどのように日本の近代を開いたか。江戸時代が終わりをつげ、新たに明治が始まる時、何が大きく変化したのか。それは維新の変革と呼ばれるものの中身を問うことでもあり、また、そこから始まる近代日本の特質を捉えることでもある。政治の表舞台だけでなく、激動の中で行動し主張する人々の姿にも目を向けてみよう。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に定めない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>多数あるのでその都度紹介する</p>	
<p style="text-align: center;">授 業 計 画</p>	
<p>幕末の社会の動きを追うことからはじめ、開国を経て維新政府の成立、明治新政の開始頃までを時間の流れに沿って話して行きたい。この時代についての予備知識は必要としない。以下のようなテーマで、できるだけかみ砕いて話をしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> △大塩平八郎は何を訴えたか ▲水野忠邦の改革はなぜ失敗したか △ペリーはなぜ日本を訪れたか ▲井伊直弼はなぜ開国に踏切り、そしてなぜ暗殺されたか △皇女和宮はなぜ降嫁したか ▲新選組は何を守ろうとしたか △世直し一揆と「ええじゃないか」は何を求めたか ▲議会制をも構想した坂本龍馬のプランとは △大政奉還を決意した徳川慶喜の思惑は ▲西郷、大久保、木戸はなぜ武力倒幕に踏み切ったか △維新政府はなぜ「富国強兵」をめざしたか ▲ 征韓はなぜ唱えられ、そして挫折したか △大久保が選んだ「内治優先」とは ▲自由民権の思想は何をめざしたか △なぜ軍拡と対外膨張の近代か 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す</p>	

【授業科目】 西洋史概説	【担当者】 深川美奈
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】 西洋世界の歴史事象に関する基礎的知識の習得を目的とする。</p>	
<p>【テキスト】 松村赳、西川正雄、山口定、『地域からの世界史<14> 西ヨーロッパ<下>』、 (朝日新聞社、1993年)</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>フランス革命以降の西洋世界の成り立ちから戦後世界に至るまでを、いくつかのテーマに即して概説する。その際、第二次世界大戦後のヨーロッパ復興を民衆の視点から考察することをテーマの一つとして考えている。その他のテーマについては開講時に説明する。</p> <p>参考書は、適宜紹介する。</p>	
<p>【評価方法】 試験、出席で総合評価する。</p>	

【授業科目】 東洋美術	【担当者】 鈴木 泉
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>東洋美術の中核は仏教美術であり、その仏教美術を知るための基本的存在が仏像彫刻と 言って差し支えない。本授業では、この仏像彫刻の歴史的な展開を、東洋の端に位置する 日本を例に概観し、東洋美術の一面を垣間見ることとする。そこから、美術作品を見る眼、 さらには美術分野に関する教養・知識の幅を広げることが狙いではあるが、なにより受講 者諸君には、仏像を通して美術鑑賞の面白さを知ってもらいたいと考えている。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは用いず、適宜プリント資料を配布する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考文献等は必要に応じて授業中に紹介して行く。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>紀元前6世紀頃、釈迦によってインドに誕生した仏教は、紀元1世紀頃、礼拝対象とし ての仏教尊像すなわち仏像を造り出した。やがて、仏教の広まりとともに仏像もアジア各 地に伝わり、それぞれの国・地域でその表情や姿を変えて行くのである。</p> <p>通例「東洋」とは、インド以東、主に東南アジア諸国・中国・朝鮮・日本を指す語といっ てよい。しかし、その範囲は広く、各地域で文化の様相が異なり、美術様式も一様ではな いため、必然的に地域・内容を絞らざるを得ない。</p> <p>今年度も、我々にもっとも身近な日本の仏像彫刻に焦点を当て、その様式の古代から中 世にかけての変遷について概観する（余裕があれば鎌倉時代以降の流れについても言及し たいと考えている）。日本の美術は、常に大陸、とりわけ中国・朝鮮半島の強い影響を受 けて進展を遂げており、彫刻も例外ではない。そこで、本授業においてもこの点を十分に 踏まえ、随時中国・朝鮮半島等の仏像を比較参照の意味で紹介して行きたいと思っ ている。</p> <p>授業はおおよそ以下の順序（前後することもある）・内容を予定している。一つのテー マを1～3回の講義でまとめて行くつもりである（授業回数の都合により一部変更する場 合あり／ほぼ毎回スライドを使用する予定）。</p> <p>I. 仏像の見方 ① 仏像の種類・かたち ② 仏像の材質・構造</p> <p>II. 仏像の誕生とその伝播 ③ インドから中国・朝鮮半島への流れと日本への伝播</p> <p>III. 日本における仏像様式の展開 ④ 飛鳥時代の彫刻～〈仏教伝来・渡来仏・止利仏師・止利様式と非止利様式・法 隆寺の諸像〉 ⑤ 白鳳時代の彫刻～〈小金銅仏・当麻寺の諸像・旧山田寺仏頭・童顔童子形像〉 ⑥ 天平時代の彫刻～〈法隆寺塔本塑像・葉師寺、興福寺、東大寺、唐招提寺の諸 像・写実表現の完成〉 ⑦ 平安時代の彫刻～〈唐招提寺木彫像群・密教尊像・一木造像・大仏師定朝と定 朝様式・和様化・奇木造像〉 ⑧ 鎌倉時代の彫刻～〈運慶、快慶と慶派仏師・宋風彫刻・新たな写実表現〉</p> <p>IV. 総括</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 平常点（出席状況＝2/3以上の出席が原則・受講態度等） ② レポート（1回） ③ 定期試験（筆記） 以上を総合して判断する。詳細はあらためて授業中に説明する。</p>	

【授業科目名】 演劇論

【担当者】 高橋秀雄

【開講期】 1年 前期

【授業目標】 “人生は劇場なり”という言葉があり、また、演劇は宗教儀礼から発しているという説があるように、演劇は古くから生活の中の文化として成立し、多様な展開をみせてきた。この演劇の展開の歴史を辿り、演劇について考察を試み、とくに西洋と東洋、さらには日本との比較の中で演劇の特質を探究する。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

参考書：各種演劇関係書（その都度指示する）

授 業 計 画

洋の東西における演劇の特色を明らかにするとともに、演劇の構成要素である演出・演技・舞台美術・照明・音響・衣裳などの演劇の基礎的表現を分析し、さらには、西欧の諸演劇と日本の演劇と比較することによって、その多様性と特質を理解する。各テーマについては、1回または数回の講義となる。

1. 宗教儀礼と演劇
2. 悲劇と喜劇
3. 能と「花伝書」
4. リアリズム演劇とスタニスラフスキー・システム
5. 歌舞伎と「虚実皮膜論」
6. 歌舞伎と新劇
7. オペラとミュージカル
8. 比較演劇論
9. 現代と演劇

【評価方法】

1. 期末のレポート	} 左記3項による総合評価
2. 授業時の小レポート	
3. 授業時の平常点	

【授業科目】 現代社会論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>私たちが生活している今の社会はいろいろな側面から捉えていくことができる。 本講では、「文化」を主たるテーマにして、現代社会を論じてみることにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業中に適宜指示する</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「文化」のさまざまな定義 2. 人間にとって「文化」がもつ意味 3. 「文化」への参加のいくつかの段階 4. 「文化」の発生から消滅までの図式 5. 「文化」の諸相 (1) 子どもの「文化」 6. 同上 (2) 若者の「文化」 7. 同上 (3) おとなの「文化」 8. 同上 (4) 高齢者の「文化」 9. 生活の節・年中行事としての「文化」 	
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテスト（ノート等持ち込み不可）</p>	

【授業科目名】 現代家族論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人類の歴史と共に古い、といわれる家族。この家族は今日の社会において私達の生活とどうつながりをもっているか。今日、いろいろな角度から家族がテーマとされるが、本講では「福祉」の視点から考えてみる。福祉すなわち「人間としての幸せ」は家族とどうかかわっているか、が主たるテーマとなる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>望月 嵩、木村 汎共編 『現代家族の福祉－家族問題への対応』 培風館</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 人間にとって家族とは何か</p> <p>2. 家族のはたらき</p> <p>3. 家族のタイプ</p> <p>4. 家族のしくみ</p> <p>5. 家族と福祉</p> <p>6. まとめ</p>	<p>－ 家族は人類の歴史と共に古い集団といわれる。つまりわれわれ人間にとって家族は必須のものであったし、今後もそうであろう。人間が生きることとの関わりで「家族」の定義をする。本講では家族を「福祉追求の集団」とする。</p> <p>－ 家族は基礎的集団といわれ、いろいろなはたらき（機能）を同時併行的にもつ。しかし今日の社会では、すべての機能が一律に求められているとは限らない。家族がもつどのような機能に注目すればよいか考える。</p> <p>－ 家族という集団を形成し、それを拠点として生活するとき、そこにはさまざまな家族のタイプが生ずる。また社会全体がもつきまりやルール（規範）によって家族のあり方も規制される。どのような家歳のタイプが望ましいか、考える。</p> <p>－ 家族がもつ目標を達成するためにはそのしくみ（構造）が問題となる。役割構造と権威構造との2面から検討する。</p> <p>－ 家族は福祉追求の集団であるとするとき、そこにはいくつかの課題が生ずる。</p> <p>(1) 子どもの養育と家族福祉 (2) 母子家庭、父子家庭と家族福祉 (3) 高齢化社会における家族福祉</p> <p>－ 今後、家族を形成するものとして、望ましい家族福祉の姿を考えてみる。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテストを期末に実施</p>	

【授業科目】 日本国憲法	【担当者】 松田 浩
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、日本国憲法の仕組みと働きの大枠を理解することを目標にします。みなさんがこれから市民として、職業人として生活していくうえで、最低限必要な憲法や法についての基本的な考え方を、この授業を通じて身につけて下さい。</p>	
<p>【テキスト】 無</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】 さしあたり、芦部信喜『憲法』（岩波書店）。「面白い本」ではありませんが、日本国憲法についてのスタンダードな知識を得たい方は手にするといいでしょう。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1、日本国憲法とは何か 2、日本国憲法の基本原則 3、国民主権・天皇制 4、平和主義 5、基本的人権総論 6、精神的自由権 7、経済的自由権 8、人身の自由・国務請求権・参政権 9、社会権 10、統治機構総論・国会 11、内閣・財政・地方自治 12、裁判所・違憲審査制 13、憲法改正 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席）と期末試験で評価</p>	

【授業科目】 市民生活と法	【担当者】 武藤 健一
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年半後に、主に女性である皆さんが実際に社会に出ていって、自分が女性であることから遭遇するかもしれない事柄・問題について検討し、自分の今後のこと・将来のことを考えるきっかけを得られるようにすることを目的とします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは用いません（レジュメ配布）。</p>	
<p>【参考書】 伊田 広行 「シングル単位の社会論」（98年 世界思想社）を読むことを強く勧めておきます。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>現代の日本社会では女性がどのような状況におかれているかを、女性労働と恋愛・結婚、という2本の柱を立てて、様々な統計的資料やその分野に関わる法律の内容を検討します（たまにビデオをみることもあります）。</p> <p>具体的には労働では、① M字型雇用 ② 総合職・一般職 ③ セクシュアル=ハラスメント ④ 派遣労働 ⑤ 育児・介助休暇 ⑥ パート労働 ⑦ 性別職務分離・男女賃金格差 ⑧ 男女雇用機会均等法・労働基準法 ⑨ 就職・転職、の9項目を、</p> <p>恋愛・結婚では、① 恋愛観・結婚観 ② 結婚 ③ 家事 ④ 育児 ⑤ 夫・恋人の暴力(DV) ⑥ 子どもの虐待 ⑦ 離婚、の7項目を予定しています。</p> <p>注意点</p> <p>1) 一方的なつまらない授業にはしたくないので、学生の皆さんの積極的な授業参加を願っています。</p> <p>2) 飲食などの、授業や他の人の迷惑にならない事は、自由にしてもらって構いませんが、おしゃべりなどは絶対に許されません。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学年末に簡単な筆記試験を行ない、その評価をもとに授業の出席点（・レポート点）を加味して評価を下します。</p>	

【授業科目】 政治学入門	【担当者】 梅田 欽治
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>主権者の一人として、日本と世界の政治に関心を持ち、自立した自分の意見をもてるようになること。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業のなかで資料を配付し、それをテキストにします。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて授業のなかで紹介します。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>「政治なんて嫌い」「政治は私には関係ない」「政治は難しくて、わからない」などという人がいるかもしれません。本当にそうなのだろうか。</p> <p>実は、政治はドラマのように面白いのです。しかも私たちの生活に直接、関係しています。どうして、いまの日本の政治に怒らないのか、憤らないのか。</p> <p>どうして、あきらめているのか。このままで、私たちの未来はどうなるのだろうか。こういうことを知りたい人は、この授業を受けたらよい。</p> <p>毎回、なにか新しい発見があるでしょう。</p> <p>いよいよ新しい世紀、21世紀が幕を明けました。この21世紀はどのような時代になるのか、どのような時代を創ることができるのか、そのヒントは20世紀の歴史のなかにあるのです。20世紀の歴史のなかで、政治について考えることにしましょう。</p> <p>戦争と平和、人権・環境…大きな課題があります。</p> <p>そして、それらの根底には「国家と個人」「個の自立」という問題があるのです。</p> <p>私たちは日本国の主権者です。私たちが政治を動かすのです。日本を創るのです。政治学入門は、そのために学ぶのです。入門だから、気楽に受講しなさい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況、受講態度と試験の結果で評価します。</p>	

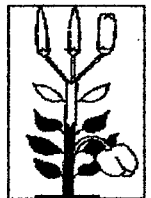
【授業科目】 生活の経済学	【担当者】 高橋美保
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>人間はすべて、さまざまな欲求を充たしながら生活している。その欲求の対象は物質的なものだけでなく、精神的なものも含まれている。したがって生活経済論はいろいろの側面をもっている。授業では、現代の日本社会の中の人々の暮らしを市場経済的側面からとらえるだけでなく、経済外的な側面も考察し、総合的に現代の生活経済の基本的な知識を習得するようにしたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業の中で、適宜紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>次のような編成で、講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族形態の多様化と家計 2. 国民経済の中の家計 3. 税金と社会保障費の負担 4. 収入と収入構造の変化 5. 支出と支出構造の変化 6. 家計の貯蓄と負債 7. 環境に優しい家計 8. 医療制度の現状 9. 社会保障制度の現状 10. 余暇生活 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への出席状況とレポートによって評価する。</p>	

授業科目 心理学入門	担当者 林 潔
開講時期 1年後期	
授業目標 性格理解と社会的関係における人間理解	
テキスト なし	
参考書 随時紹介します。	
授 業 計 画	
<p>さまざまなタイプの人があります。 同じ事柄についても受け止め方がさまざまです。 どうしてなのでしょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動について心理学はどのように考えているか。 経験を重視する（学習理論） ものの見方や考え方を重視する（認知論） 過去、特に幼児期の体験を重視する（精神分析） 2. 性格について考える ここでは今日の性格についてのいくつかの基本的な見方について紹介します。 3. 人間関係について考える 人間の悩みは人間関係の悩みだともいわれています。 ともすればやっかいな人間関係、その特徴と、いくつかの対処法について紹介します。 	
評価方法 平常点、指定図書レポート、中間試験、期末レポートで評価します。	

【授業科目】 マスコミュニケーション概論	【担当者】 瀬木博道		
【開講期】 1年 後期			
<p>【授業目標】</p> <p>現代はマスコミ支配の時代ともいえる。このマスコミを初歩から説き起こし、マスコミ現象が社会に及ぼす影響について考えられるようにしたい。言論の自由の基礎になる「知る権利」を重点に学ぶと同時に、社会で実際に必要となる広告、広報の理論と実際もさぐって行きたい。</p>			
<p>【テキスト】</p> <p>瀬木博道ほか共著 「コミュニケーションするPR」電通</p>			
<p>【参考書】</p> <p>瀬木博道ほか共著 「広報の基礎Ⅰ」日経広告研究所</p>			
授 業 計 画			
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 1. マスコミの理論 (上) 2. 同 (下) 3. マスコミの実際 4. ジャーナリズムの理念 5. 日本と欧米のジャーナリズム 6. メディアとしてのテレビの長所、限界 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 7. 言論の自由と知る権利 (上) 8. 同 (下) 9. 広報概論 10. パブリシティとは 11. 国際広告 12. 記者クラブの問題 13. 広告の概念 </td> </tr> </table>		<ul style="list-style-type: none"> 1. マスコミの理論 (上) 2. 同 (下) 3. マスコミの実際 4. ジャーナリズムの理念 5. 日本と欧米のジャーナリズム 6. メディアとしてのテレビの長所、限界 	<ul style="list-style-type: none"> 7. 言論の自由と知る権利 (上) 8. 同 (下) 9. 広報概論 10. パブリシティとは 11. 国際広告 12. 記者クラブの問題 13. 広告の概念
<ul style="list-style-type: none"> 1. マスコミの理論 (上) 2. 同 (下) 3. マスコミの実際 4. ジャーナリズムの理念 5. 日本と欧米のジャーナリズム 6. メディアとしてのテレビの長所、限界 	<ul style="list-style-type: none"> 7. 言論の自由と知る権利 (上) 8. 同 (下) 9. 広報概論 10. パブリシティとは 11. 国際広告 12. 記者クラブの問題 13. 広告の概念 		
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況、受講態度を参考にして、学期末の筆記試験で決める。</p>			

【授業科目】 現代社会と女性	【担当者】 富永静枝
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>男女共同参画社会に向けて、伝統的な性別役割分業を見直し、21世紀に生きる男女の望ましい在り方や生き方を探る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>講義資料（プリント）は随時必要に応じて配布する</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>「男女は平等になっていますか」と聞かれたらあなたはなんと答えますか。家族や女性を取り巻く社会的状況が大きく変化し、男女共同参画社会に向けて、男女雇用機会均等法の改正や介護・育児休業法の実施など法的整備は整えられつつあります。しかし本当に男女は平等になっているのでしょうか。不況下での女子学生の就職は厳しく、結婚後も家事・育児と職業の両立に悩むなど、女性が能力を発揮して、一人の人間として自立して主体的に生きることはまだまだ困難な状況にあります。一方男性も厳しい労働環境の中で豊かな家族関係を築くことが難しい状況におかれています。そこでこの授業では人生のパートナーである男性と女性が、ともに人間らしく豊かに生きるためにはどうしたら良いか、これからの望ましい男女のあり方や、社会システムのあり方について学びます。授業方法は講義だけでなく、ビデオや新聞記事情報なども活用し、意見発表や討論なども加えて行います。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、女性のライフサイクルの変化 2、女性を取り巻く社会的状況 3、性別役割分業とその問題点 4、女性と職業 5、少子・高齢社会と女性 6、女性と人権 7、男女平等をめざす世界の運動と日本の動き 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末試験、平常時の提出物、出席状況の総合評価</p>	

【授業科目】 自然科学史	【担当者】 柳下登
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 人間は自然を理解する（科学する）ことで自己を変革し、より人間らしくなった。科学の歴史はヒトから人間化への歴史である。人間は古代から生命、広くは生物的自然に強い関心を持ち、それについての理解は紆余曲折を経て科学の姿を整えてきた。この講義ではそれぞれの時代の自然についての理解がより科学的な考えにとってかわった過程を概観することにした。そして、各論として生命の正体の追求とその成果による生命操作を考察し、最後に 21 世紀の科学・技術と人間、社会の課題についても言及したい。</p>	
【テキスト】 プリントを中心におこなう予定。	
<p>【参考書】 新編自然科学入門（甲斐義幸）学術図書、科学思想のあゆみ（Ch. サンガー）岩波書店、科学の考え方・学び方（池内 了）岩波ジュニア新書、近代科学の歩み（H. バターフィールド）岩波新書、遺伝子組換え作物に未来はあるか（柳下登ら）本の泉社 世界のたね（E. ニュート）NHK 出版</p>	
授 業 計 画	
<p>1) 自然科学史 a. 自然とは b. 自然科学とは c. 歴史科学とは</p> <p>2) 科学を成立させた人間の条件 a. 森の生活者サル類がヒトをつくる b. 「木から落ちたサル」のサルばなれへの道 c. 四本足から二本足へ d. 道具が人間をつくる e. 生きること（生活）が自然についての理解を深める f. 道具で道具をつくる g. 定住と農耕 h. 技術が先か科学が先か</p> <p>3) 古代のエジプトとギリシアでの「科学」の起こりと近代科学の成立 a. ナイル河の知的贈り物 b. 自然を見つめた人びと c. 諸学の根源—アリストテレス d. アリストテレスに別れをとげニュートンへの道</p> <p>4) 生き物の正体を求めて a. アリストテレスの自然のはしご b. ヘルモントラの自然発生説 v s パスツールの実験 c. 細胞（生命）あるものから細胞（生命）へ d. ラマルク：生物は段々と複雑になった e. ダーウィン：生物は共通の祖先から f. オパーリの生命の起源と自然発生」説の復活 g. メンデルの遺伝の粒子説 h. ワトソン・クリックの DNA の 2 重らせん i. バイオテクノロジー（遺伝子組換え、クローン、ゲノム解析）の確立</p> <p>5) 21 世紀の科学技術と人間、社会の課題 a. 市民参加による共通理解と合意形成</p> <p>6) 私の研究史：ピートン物語</p>	
<p>【評価方法】 定期試験にかわる課題レポート。その他、希望によって、自発的なテーマの設定による科学博物館見学、自然科学関係図書読書などについてのレポートも評価に加える。</p>	



【授業科目】 生命の科学	【担当者】 小作明則
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>21世紀を迎えた今、「生命」に対する考え方は大きく変貌しつつあります。この変貌を支える「生物学・医学」で扱う「生命の成立過程」について地球物理学、化学、進化生物学そして歴史学的な面から理解を深めることで今後、人類が個人レベルで判断・選択を迫られる「生命」というものについて考えてみたいと思います。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキスト・参考書は特に指定しない。</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>この講義では授業目標に掲げた内容を理解するために、おおよそ以下の各時間ごとのテーマに従って講義を進めていく。この講義は講義室での説明・板書だけが目的ではなく、できる限り実物を自分の眼で見、手で触り、バーチャルではなく五感を持って理解することを目的としたい。</p> <p>以下に時間ごとのおおよその講義タイトルを示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 太陽系と地球の誕生、物質の由来 2. 地球と水と生命誕生 3. 地球型生物の特徴と進化 4. 分子生物学と進化 5. 植物と動物の分化と進化 6. 生物の存在と地球環境の変化 7. 脊椎動物の進化 8. 生殖方法の変化と動物進化 9. サルとヒト <p>以上を講義として行い、これ以外に博物館、水族館、動物園等さらに玉川上水の散歩等実物を見ながら生命について考えていこうと考えている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートあるいは筆記試験</p>	

【授業科目】 生物と環境	【担当者】 吉川研二
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>地球上に生命が誕生したのは20数億年前という。以来、地球生態系は多種多様な生物によって脈々と維持され続けてきた。この生態系にヒトという種が加わったのはわずか数百万年前のことである。当初、ヒトは多くの生物たちと共存してきた。しかしこの一世紀ほどの間に多様な生物の世界は急激に失われつつある。その最大の原因は人間による生物の生息環境の汚染や破壊、資源の乱獲などである。多くの種の消滅は生態系の単純化につながり、ヒトの生存も危うくなる。ヒトと生物とその生存環境を考える。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>OUR STOLEN FUTURE 邦訳『奪われし未来』 1997. 9 翔泳社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>海洋生物学者の Rachel L. Carson は『Silent spring』の中で合成殺虫剤が自然界にもたらす危険性について警告した。40年近くたった今また、環境ホルモンという合成化学物質が生物の世界に影響し始めた。40年前の警告によって人類はどれだけ賢くなったのだろうか？</p> <p>授業では基礎的な科学の素養が必要。今までの勉強で得た幅広い知識を生かして臨んでください。</p> <p>自然科学の世界 単位について 環境とは 生物の世界 生態系、その構造と機能 天然化学物質と合成化学物質 沈黙の春 環境汚染 内分泌かく乱物質 奪われし未来</p>	
<p>【評価方法】 平常点+筆記試験</p>	

【授業科目】 生活の科学	【担当者】 滝沢靖臣
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】 現代における私たちの生活の進展は大きく、衣食住ならびに医薬品からコンピュータまで様々な物質に取り囲まれている。これらの物質を構成している原子や分子の世界に目を向けて、それらの特性を学ぶことにより、身近に起こっている科学的な現象を少しでも正しく理解できるようになることを本授業の主眼としている。</p>	
<p>【テキスト】 「物質とは何か」-化学の基礎- 東京教学社</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>物質の成り立ちを理解してから、それらの物質を通して私たちの身の回りの科学的な現象が理解できるようにする。特に基礎知識がなくても授業を受けることで理解できるように平易に解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の中の物質科学を考えてみよう。 2. 身の回りにある水分子の世界を覗いてみよう。 3. 原子と分子と私たちの生活。 4. 原子はどのような構造をもっているのだろうか。 5. 物質をつくっている分子の構造は何により決まるのだろうか。 6. 物質の状態は何により決まるのだろうか。 7. 金属と超伝導とはどのような関係にあるのだろうか。 8. 酸はなぜ酸っぱく感じられるのだろうか。 9. アルコールの正体は何であろうか。 10. 日焼けと日焼け止めと光化学反応。 11. 人や物質の老化は防げるのだろうか。活性酸素の化学。 12. 物質科学とエネルギーを考える。 13. 物質科学から見た衣類、高分子化学の世界をみる。 14. 石油資源と石油化学を考える。 15. 21世紀の物質の世界を考える。 	
<p>【評価方法】 試験、レポート、出欠により評価する。</p>	

【授業科目】 健康の生理学	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 1. 健康の概念と健康管理活動の原理の理解 2. 人体各器官の生理機能の理解 3. 疾病予防や健康増進に必要な基本的知識の習得 4. 女性の医学 5. 健康管理の実際（血圧測定・体脂肪率測定）：自己測定を行い健康への関心を高める	
【テキスト】 栄養、健康科学シリーズ 健康管理概論 南江堂	
【参考書】 新・健康管理概論（改訂第2版）医歯薬出版 シンプル 衛生公衆衛生学（改訂第9版）南江堂	
授 業 計 画	
第1回 健康の概念 第2回 疾病予防と健康管理（I-1）：わが国の健康水準と健康増進施策 第3回 疾病予防と健康管理（I-2）：生活習慣病（癌・心疾患・高血圧） 第4回 疾病予防と健康管理（I-3）：生活習慣病（脳血管疾患・糖尿病・高脂血症） 第5回 疾病予防と健康管理（II）：健康管理法 （肥満・運動・ストレスと休養・飲酒・喫煙などの健康への影響） 第6回 健康管理の実際（血圧測定・体脂肪率測定） 第7回 女性の医学（I）（加齢と性機能・月経のしくみとホルモン） 第8回 女性の医学（II）（主な疾患の概要） 第9回 女性の医学（III）（性病・人工妊娠中絶と避妊法） 第10回 学校保健・産業保健 第11回 環境保健・母子保健・地域保健 第12回 日常出会う乳幼児疾患 第13回 成人・老人保健 第14回 保健医療制度と法規	
【評価方法】 出席点と筆記試験	

【授業科目】 宇宙と地球	【担当者】 猪郷久義
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>人類は地球史の中では最も新しく出現したにもかかわらず、地球の自然環境を自らの手で改変するまでに至っている。また生命史という観点では、人類の遠い先祖は地球創生期の30数億年前まで溯る事ができる。この授業では宇宙の一員としての悠久の地球史と生命史を通して現在の地球環境を考察する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に定めない</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて随時推薦する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 新しい地球観—プレートテクトニクス— 2) 地球の概観—陸地と海洋— 3) 地球の内部を探る 4) 地球の構成物—身近な鉱物と岩石の科学— 5) 防災の科学としての地球科学—地震と火山— 6) 地球環境の変遷と古生物—繁栄と絶滅— 7) 宇宙の中の地球 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と論述形式のテストで評価する</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>【総合科目人間全体について】</p> <p>1年間で3人の教員が担当する総合科目であり、「ヒューマニズムと人間」の考察が大目標である。</p> <p>栗田（前期前半）→ 鍾（前期後半）→ 平賀（後期）の順で講義する。</p> <p>【栗田担当分について】 哲学的なアプローチで「人間・ヒューマニズム」を考察する。</p>	
【テキスト】 用いない。必要に応じてプリントを配布する。	
【参考書】 必要に応じ、講義中に紹介する。	
授 業 計 画	
<p>「ヒューマニズムは間違っている」と言う人は多くないが、では、なぜ「ヒューマニズム」は「正しい」のか。「人間を大切にするのは当たり前だ」では、「自分の思想」にも「学問」にもならない。要するに、「世間的通念」に流されているだけである。「ヒューマニズム」は白梅学園「建学の理念」ともされているが、その「理念」自体も、自由な学問的立場で検証されねばならない。</p> <p>こうした立場から、おおむね、以下の順に講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「根源的に問う」態度について。 ② 「自己」と「世界」 ③ 我々の状況—近代に於ける「人間」の問題 ④ 「近代ヒューマニズム」思想の問題点 ⑤ アイデンティティーと共同体 	
<p>【評価方法】 <u>1年間を通して</u>（3人の教員が各々の担当部分の評価を持ち寄り）<u>全体として成績評価を下す</u>。</p> <p>栗田担当部分の評価は、レポートにより、出席点を加味する。</p> <p>講義を良く聴いて、しっかりノートをとっておくこと。</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 鍾 家新
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>本講義は中国の事例を中心に、国際比較を通して、①自然に対する人間の意味付与と自然への融和、②人間の拡張欲望、③人間の消費欲望、④人間の欲望を実現・制限する現代国家、について分析する。日本人と中国人の人間像の異同及び現代国家における個人・家族の苦闘を探究する。異文化比較の手法を取り入れる。本講義の受講によって、学生たちは人間、現代国家、外国を相対的に見るための知識と能力を身につける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>鍾家新著『中国民衆の欲望のゆくえ — 消費の動態と家族の変動』新曜社、1999年。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p style="text-align: center;">授業ではつぎの諸テーマを取り上げる。</p> <p>I 自然に対する人間の意味付与と自然への融和 ①中国の住宅と日本の住宅との比較 ②「風水」信仰の意味・背景・影響</p> <p>II 人間の拡張欲望 — 家族の日中比較 ①外国人が見る日本の家族構造の特徴 ②中国の家族構造と伝統文化の深さ ③中国の「一人っ子政策」と日本の少子化 ④中国女性の社会的地位と日本女性の社会的地位</p> <p>III 人間の消費欲望 ①中国民衆の消費動態 ②近代化が進む中国民衆と日本民衆との共通点</p> <p>IV 人間と国家 ①人間の欲望を実現する手段とする現代国家 ②人間の欲望を制限する装置とする現代国家</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">筆記試験（テキスト・ノートなど参照可）と出席状況。</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>前期のヒューマニズムと人権に引き続き平和について考える。平和という言葉の意味するものを含め、その状態にするためにはどのような取り組みが必要か、そしてこれまでその目的のためにどのような積み重ねが行われてきたかを明らかにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特にさだめない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>多数あるのでその都度紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>まず戦争と平和の問題をてがかりに話を進めるが、非戦争状態＝平和とは必ずしも言えないのが現代社会の特徴でもある。そのような非平和的状态を的確に捉えることも課題として重視したい。大きく以下のような柱立てを考えている。</p> <p>△18, 19世紀のヨーロッパイギリス、フランス、ドイツの国民国家形成 ▲帝国主義戦争の時代－現代の地域紛争の原因 △日本の近代化＝遅れた国民国家形成－特異なナショナリズム形成 ▲第2次世界大戦とその後の冷戦 △核時代とゼロサム社会の現実 ▲地域紛争の実相を探る－湾岸の危機、コソボ紛争、東ティモールの現実 △戦争の世紀＝20世紀の克服－国民が国家を超える時 ▲平和思想の歴史から何を学ぶか △日本国憲法、国連の役割と改革、NGOの可能性 ▲飢餓、貧困、差別の実態 △地球市民としての自覚と行動</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す</p>	

【授業科目名】 情報処理入門	【担当者】 倉澤寿之
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 あらゆる分野で必要とされるコンピュータ利用の初歩を学びます。ワープロをはじめ、電子メール、表計算、画像作成などの実習を行い、情報メディアリテラシーの基本を修得することをめざします。できれば、ホームページの作成などにも手を伸ばしてみましょう。	
【テキスト】 特に指定しません。	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. タイプ練習 ・キーボードリテラシー 正しいタイピングの方法を学び、練習します。 きちんとしたタイピングができると、仕事の能率が飛躍的に上がります。</p> <p>2. ワードプロセッサ ・基本的文書作成 いくつかの文書作成の実習を行います。コンピュータ利用の多くは文書の作成です。ここで慣れておきましょう。 単に「清書機」として使うのではなく、「考えながら書く」やり方を身につけるといいです。 さらに、文字ばかりではなく、パソコンで描いた絵も入れて、表現力豊かな文書にしましょう。</p> <p>3. 電子メール ・ネットワークコミュニケーションの基礎 電子メールを使えることは、今や当然の技能となりつつあります。 インターネット時代のコミュニケーションの基本として、身につけておきましょう。</p> <p>4. 表計算ソフト ・コンピュータによるデータ処理の基礎 「データをコンピュータで処理する」というと、難しく聞こえますが、そんなことはありません。名簿や家計簿を作ったり、グラフを描いたりしているうちに、自然にわかってくるでしょう。</p>	
【評価方法】 ときどき課題を出します。提出はたいていネットワーク経由です。	

【授業科目】 情報処理入門	【担当者】 宮武直樹
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>最近のパソコン、ワープロ機器の普及はめざましいものである。この情報化社会の素養として、コンピュータの仕組み、操作からワープロ、表計算、図形処理、ネットワーク利用までの基礎を学習する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>随時プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考文献を授業で紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>「授業計画」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの構成と操作方法 2. 日本語ワープロ、Word の基本操作（3級程度の文書作成） 3. 表や罫線を使う文書作成（2級程度の文書作成） 4. 図形や段組を使う文書作成（1級程度の文書作成） 5. 表計算機能の使い方 6. 作図機能の使い方 7. 表計算ソフト、Excel の基本操作 8. 成績表の作成 9. 各種の成績グラフの作成 10. 成績に関するデータベースの作成 11. 学内ネットワークへの接続と電子メールにつ 12. 電子メールの送受信 13. 簡単なホームページの作成 14. まとめ 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業中での課題提出、電子メールによるレポート提出及び出席状況によって判断する。</p>	

【授業科目】 情報処理入門	【担当者】 中村光伴
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>情報化社会において、さまざまな場面でコンピュータ情報処理技能が基礎的な技能となっている。情報処理入門では、コンピュータの基本的操作、電子メール、インターネット上での情報検索、ワープロソフトと表計算ソフトを用いた文書作成を具体的目標に設定し、それぞれの技能を修得することを目的とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを授業内で配布する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考文献を授業内で紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>基本的には各授業の前半に学習内容に関する説明を行い、その後、実習形式による操作技能の習得を行う。</p> <p>次の項目について授業を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの仕組みと基本操作 2. タイピング練習とファイル管理 3. 学内ネットワークの仕組みと電子メールについて 4. 電子メールの送受信 5. Web Page の閲覧と情報検索 6. ワードプロソフトによる文書作成（基本操作） 7. ワードプロソフトによる文書作成（表や罫線を用いた文書） 8. ワードプロソフトによる文書作成（図の作成と段組文書作成） 9. 表計算ソフトによる表、グラフ作成（基本操作） 10. 表計算ソフトによる表、グラフ作成（表の作成） 11. 表計算ソフトによる表、グラフ作成（グラフの作成） 12. まとめ（最終課題作成） 	
<p>【評価方法】</p> <p>主に実習形式となるので、出席と課題提出を重視し、評価する。</p>	

【授業科目】 情報処理入門	【担当者】 丸山 有紀子
【開講期】 1年 後期	
【授業目標】 情報化社会において必須となる、情報リテラシーをワープロソフト、インターネットおよび表計算ソフトの利用をとおして身につける。	
【テキスト】 <p style="text-align: center;">プリントを配布する</p>	
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 【参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータを使い始めるにあたっての説明 コンピュータの各部分の名称、使い方の説明。 ログオンとログオフ、IDとパスワード。 2. タイピング タイピングの方法 漢字変換、カタカナ、アルファベットの入力の仕方。 簡単な文章の入力。 3. ネットワークの活用 WWWによる情報検索、電子メールの利用。 4. ワープロソフトの利用 文字の入力。 文書の保存、呼び出し。 印刷の仕方、印刷スタイルの設定。 基本的な文書のスタイル。 5. 表計算ソフトの利用 用語の解説、基本的な操作、データ入力の仕方。 数値データの入力、計算。 グラフの作成。 	
【評価方法】 出席および授業中に行う課題。	

【授業科目】 総合英語 I-1、2	【担当者】 清野茂子
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育現場を英語の教材としてとらえた教科書です。 保育者と、子供や保護者との間での日常生活に欠かせないコミュニケーションを、英語でどのように表現するかを学んでほしい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「保育の英語」 森田和子著 三修社 ¥1,700</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>テキストは、子供たちの園生活での様々な場面を扱った内容で20章から成り立っています。 各章の本文は必ず読んで自分なりに理解して授業に出ることを前提に一年間を通して内容を楽しみます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席日数、平常の小テスト、および期末テストを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 総合英語 I-1、2	【担当者】 磯山 滯一
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>短くて平易な対話文を用いて、高校で学習した英語の基本的な語法・文法を再確認しながら、読む力と表現する力を伸ばします。また、身近な話題の新聞記事などを読むことで、時事英語に親しめるようにします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配ります。</p>	
<p>【参考書】 「やさしい英字新聞入門」 天満美智子, エリック・ペレトン 共著 岩波ジュニア新書</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>次のようなテーマを取り上げますが、その他に英字新聞の短い記事や人生相談を引用します。</p> <p>1. 自己紹介 2. 趣味 3. 家族 4. 学校生活 5. スポーツ 6. いじめ</p> <p>7. 幼稚園実習 8. 小児化 9. 夫婦別姓 10. 共働き 11. 死刑廃止問題</p> <p>12. 携帯電話 13. ボランティア活動 14. 自然 15. ペット 16. 食品</p> <p>17. 公害 18. 核問題・原発</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>テスト, 小レポート, 出席状況を総合して評価します。</p>	

【授業科目】 総合英語 I-1、2	【担当者】 藤田幸世
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>これまで学習してきた『英語』を基礎知識として、さらに自分を表現するための『外国語』としての英語を学習することを目標とします。</p>	
<p>【テキスト】 授業毎にテキストとなるプリントを渡す他、必要におうじて紹介します。</p>	
<p>【参考書】 授業中に必要なときに紹介することにします。</p>	
授 業 計 画	
<p>Q: 19歳の女子学生が日本の国外で英語を話す時、どのような英語がふさわしいでしょう。</p> <p>まず、英語はよく国際語と位置付けられますが、その英語とはイギリスの英語のことをさすのでしょうか、それともアメリカの英語？一口に英語といっても一人一人の人がもしかしたら違う「英語」について考えている可能性だってあります。この授業では英語という言葉のさまざまな顔にできるだけ多く接することを目標とします。</p> <p>英語と言語背景の知識と同時に、こんどは英語を実際に使用することを考えてみましょう。十代の女子学生が話す英語はどのようなものが相応しいとされるのでしょうか。例えば、日本語話者の私たちは同じ日本語であっても「子ども」と「大人」の話す言語が同じではないことはすぐにわかりますよね。そうすると、外国語の教科として学習してきた「英語」を女性である十代の学生が話す場合はどのような「英語」がふさわしいと考えられるのでしょうか。その答えは一つではないはず。</p> <p>毎授業ではビデオ、資料を見ながら、語彙の聞き取り、内容についての質問などを行ないます。間違いを恐れず、自分の考えを自信をもって皆のまえで話す努力をしてほしいと期待します。必要なことは随時相談しながら決めてゆくつもりです。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と期末レポートを併せて評価を出します。</p>	

【授業科目】 総合英語 I-1、2	【担当者】 藤田久美子
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>ビデオを使った会話の聞き取りを中心にして、英語の運用能力を向上させていくことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】 Daily English (KINSEIDO)</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>中・高6年間にわたって学習してきた英語も、いざとなると簡単な会話も、そう難しくもない文章の解釈も思うにまかせないと、相当多くの方が感じているだろうと思う。</p> <p>そこでこのクラスでは、いろいろな場面での会話をビデオを通して聞き取る練習をしていきたい。こうした練習を重ねることで、必要な表現を覚えることが出来ると思うし、また、実際に使ってみて身につけて頂きたいと思っている。ペア・ワーク、グループ・ワークなども取り入れ、楽しく、活発にやっていきたいと思っているので、予習・宿題などをきちんとして授業に備えて頂きたい。</p> <p>時々、皆さんの関心を引くような文章を比較的速く読む練習もしたいと思っている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状態、毎回の練習問題の結果、そして普段の授業参加度を総合して最終評価とする。</p>	

【授業科目】 総合英語 I-1、2	【担当者】 新井紀代
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>英語の4技能のうち、「聞く」力と「読む」力の向上を目指す。 リスニング・リーディングとも、比較的平易なものから始め、徐々にレベルアップしていく予定。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p><u>Your Ear for English</u> (金星堂)</p> <p>開講時までには必ず購入しておくこと。他にコピーを使用する。</p>	
授 業 計 画	
<p>リスニングとリーディングの訓練を半分ずつ行なう。</p> <p>*リスニング*</p> <p>毎回小テストを行なう。</p> <p>最初は、初級レベルの <u>Your Ear for English</u> を使用し、英語の音に耳が慣れてきたら、他のリスニング教材も併用する。</p> <p>*リーディング*</p> <p>前期は、<u>What's Behind the Word?</u>, <u>The Story of English</u> (いずれもマクミラン) から何章か抜粋したものを読み、英語の発祥と発展、語の由来などに関する基礎知識を得る。また、言葉の歴史を通して見えてくる社会・文化の発達にも目を向ける。</p> <p>後期は、なるべくさまざまな分野の読み物を取り上げる予定。前期の終わりに学生と相談して決める。</p> <p>テキストはコピーして配布する。</p>	
<p>【評価方法】 次の4つをもとに判定する。</p> <p>1. 出席 (授業時間数の3分の2未満の場合、単位取得できない。なお、30分以上の遅刻は欠席とみなす) 2. リスニングの小テスト 3. レポート 4. 学期末テスト</p>	

【授業科目】 総合英語 I-1、2	【担当者】 森山淑夫
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>英語の時間が私たちのこれまでの認識のわくぐみを、少しでも広げられ、それを平易な英文で表現できるようにしたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを主体にします。テキストは開講時に提示します。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 主に英語圏の子どもの世界を扱ったものが素材になります。 2 タイムリーなもの、時事的なもの、担当者の英文エッセイ等も取り上げます。 3 いくつかの教材に関連して英文による自己表現〈作文〉を求めます。これは「英文文集」として後期にまとめられます。 4 担当者による「通信」を発行します。 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点〈出席状況等〉、小レポート、試験を総合して評価します。</p>	

【授業科目】 総合英語 I - 1, 2	【担当者】 瀧口 優
【開講期】 1年 前期・後期	
【授業目標】 1. 外国語としての英語を読む基礎を身につける 2. とりわけ音声として表現できることを重視する	
【テキスト】 必要に応じて指示する	
【参考書】 必要に応じて紹介する	
授 業 計 画	
1. 英語の歌を聞き取りながらその内容を理解する。 2. 文法や表現を学び英語としての理解を深める。 3. 音声として歌詞を表現し、自分の内面に定着させる。 4. 英語を表現する楽しみを学ぶ。 *日本の歌も英語で歌われているものがあり、それらについても授業で取り上げてみたい。	
【評価方法】 ふだんの学習状況などの平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）とレポートで行うことを原則とするが、必要に応じてテストを行う。	

【授業科目】 海外語学研修	【担当者】 中島好伸
【開講期】 1年 前期 (集中)	
<p>【授業目標】</p> <p>イギリスに約4週間滞在し、生活レベルの英語力を身につけながら、イギリスの文化について学習する。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>イギリスはリーズ市にあるリーズ・メトロポリタン大学の語学センターで3週間のプログラムに参加する。その間の生活は、ホームステイ。ウィークデイは1日2コマの英語の授業があり、現地の教員が懇切丁寧に指導する。また、世界中から集まる学生達とスポーツやパーティをする機会もあり、英語圏だけではなく、世界を広げることも出きるだろう。週末には、近くにある有名な史跡などを訪ね、イギリスの歴史や文化に親しめる。ロンドン観光を含めて約4週間のイギリス滞在は、英語の見方を変えてくれるかもしれない。</p> <p>出発に向けて、前期に5回、事前指導を行い、パスポートの取得から、渡航手続き、現地での生活の仕方、簡単なサバイバル英会話まで指導します。詳しくは、説明会を行いますので、その場でどうぞ。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>現地での提出物に平常点を加味して評価する。</p>	

【授業科目】 スポーツ (テニス)	【担当者】 岡田光弘
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 まったくの初心者でも自分たちだけでゲームができる	
【テキスト】 特に指定しません。	
【参考書】 特に指定しません。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. フォアボレー 2. バックボレー 3. フォアストローク 4. バックストローク 5. サーブ・レシーブ 6. スマッシュ・オーバーヘッド <p>以上の技術をミニゲーム、球出し、打ちあい等により習得する。</p> <p>シングルス、ダブルスのゲームをおこなう。</p>	
【評価方法】 出席を重視する、技術、知識、態度という観点で評価する。	

【授業科目】 スポーツ (バドミントン)	【担当者】 松岡由紀子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツをすることによって運動不足を解消し、体力の保持増進をはかり、精神的ストレスを解放する。 ・ 運動技能と知識の習得。 	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>技能練習とゲーム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、グリップとシャトル慣れ 2、ストロークの練習 <ul style="list-style-type: none"> ・ フォアハンドストローク ・ クリアー (ハイクリアー) ・ ドロップ ・ ドライブ ・ ヘアピン ・ プッシュ ・ スマッシュ ・ バックハンドストローク 3、サービスの練習 <ul style="list-style-type: none"> ・ ロングハイサービス ・ ショートサービス 4、集団技能の練習 5、ゲームとルール、審判法 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平常点 (出席重視) ・ 授業中に採点する。 	

【授業科目名】 スポーツ（バレーボール）	【担当者】 村田 務												
【開講期】 1年 前期													
<p>【授業目標】</p> <p>バレーボールの技能及び体力の向上をめざすとともに、運動継続への意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的技能及び集団的技能 ・ 技能の程度に応じた練習法 ・ 審判法及び指導法 													
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 西川順之助 :バレーボール、成美堂、1995年。 日本バレーボール協会：バレーボールルールブック、2001年度版。</p>													
授 業 計 画													
<p>科学技術の進歩や経済の成長、社会構造の変化に伴い、運動の不足や食行動の偏り、精神的ストレスの増加など、健康に悪影響を及ぼす様々な問題が生じている。このような状況の中で、注目されているのが生涯体育（運動及びスポーツ）である。適切な身体活動は、疾病の予防や健康増進に寄与するだけでなく、生き甲斐や自己の確立など質的な生活の向上を可能にする。バレーボールは、場所や設備、体力的側面からみて、比較的容易に継続して活動することが可能なスポーツである。</p> <p>授業では、これらの観点から、将来にわたってバレーボール運動が継続できるように、「楽しい授業」、「技術の向上がわかる授業」、「自ら創りだす授業」をめざす。</p> <p><u>学習内容</u></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">① 個人的技能</td> <td>・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロッキング</td> </tr> <tr> <td>② 集団的技能</td> <td>・ 攻めと守りのフォーメーション ・ トスゲーム、3段攻撃ゲーム、ルールづくり</td> </tr> <tr> <td>③ 指導技術</td> <td>・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法</td> </tr> </table> <p><u>授業の流れ</u></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">① 全体活動</td> <td>・ 共通課題の解決</td> </tr> <tr> <td>② グループ活動</td> <td>・ 班別課題の練習と解決 ・ 指導法、練習法の習得</td> </tr> <tr> <td>③ ゲーム</td> <td>・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得</td> </tr> </table>		① 個人的技能	・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロッキング	② 集団的技能	・ 攻めと守りのフォーメーション ・ トスゲーム、3段攻撃ゲーム、ルールづくり	③ 指導技術	・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法	① 全体活動	・ 共通課題の解決	② グループ活動	・ 班別課題の練習と解決 ・ 指導法、練習法の習得	③ ゲーム	・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得
① 個人的技能	・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロッキング												
② 集団的技能	・ 攻めと守りのフォーメーション ・ トスゲーム、3段攻撃ゲーム、ルールづくり												
③ 指導技術	・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法												
① 全体活動	・ 共通課題の解決												
② グループ活動	・ 班別課題の練習と解決 ・ 指導法、練習法の習得												
③ ゲーム	・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得												
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（平常点、実技等）、意欲と活動参加を重視する。</p>													

【授業科目名】 スポーツ（バレーボール）	【担当者】 村田 務												
【開講期】 1年 後期													
<p>【授業目標】</p> <p>バレーボールの技能及び体力の向上をめざすとともに、運動継続への意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的技能及び集団的技能 ・ 技能の程度に応じた練習法 ・ 審判法及び指導法 													
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 西川順之助 :バレーボール、成美堂、1995年。 日本バレーボール協会：バレーボールルールブック、2001年度版。</p>													
授 業 計 画													
<p>科学技術の進歩や経済の成長、社会構造の変化に伴い、運動の不足や食行動の偏り、精神的ストレスの増加など、健康に悪影響を及ぼす様々な問題が生じている。このような状況の中で、注目されているのが生涯体育（運動及びスポーツ）である。適切な身体活動は、疾病の予防や健康増進に寄与するだけでなく、生き甲斐や自己の確立など質的な生活の向上を可能にする。バレーボールは、場所や設備、体力的側面からみて、比較的容易に継続して活動することが可能なスポーツである。</p> <p>授業では、これらの観点から、将来にわたってバレーボール運動が継続できるように、「楽しい授業」、「技術の向上がわかる授業」、「自ら創り出す授業」をめざす。</p> <p><u>学習内容</u></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">① 個人的技能</td> <td>・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロック</td> </tr> <tr> <td>② 集団的技能</td> <td>・ 攻めと守りのフォーメーション ・ トスゲーム、3段攻撃ゲーム、ルールづくり</td> </tr> <tr> <td>③ 指導技術</td> <td>・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法</td> </tr> </table> <p><u>授業の流れ</u></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">① 全体活動</td> <td>・ 共通課題の解決</td> </tr> <tr> <td>② グループ活動</td> <td>・ 班別課題の練習と解決 ・ 指導法、練習法の習得</td> </tr> <tr> <td>③ ゲーム</td> <td>・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得</td> </tr> </table>		① 個人的技能	・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロック	② 集団的技能	・ 攻めと守りのフォーメーション ・ トスゲーム、3段攻撃ゲーム、ルールづくり	③ 指導技術	・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法	① 全体活動	・ 共通課題の解決	② グループ活動	・ 班別課題の練習と解決 ・ 指導法、練習法の習得	③ ゲーム	・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得
① 個人的技能	・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロック												
② 集団的技能	・ 攻めと守りのフォーメーション ・ トスゲーム、3段攻撃ゲーム、ルールづくり												
③ 指導技術	・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法												
① 全体活動	・ 共通課題の解決												
② グループ活動	・ 班別課題の練習と解決 ・ 指導法、練習法の習得												
③ ゲーム	・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得												
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（平常点、実技等）、意欲と活動参加を重視する。</p>													

【授業科目】 スポーツ (ダンス)	【担当者】 松村 朋子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>・エアロビクスダンス、フォークダンス、ソーシャルダンスなど様々なダンスに触れて、運動不足の解消、運動機能の向上をはかるとともに、楽しみながら運動することを第一目的としてほしい。前半は、多様なダンスの基本的な運動を中心とし、後半は、ダンスプログラムの習得・構成・発表を行う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>使用しない。</p>	
授 業 計 画	
<p>1、ストレッチ からだ全体を使って、自由に運動できるように柔軟性を高める。 普段あまり使わない筋肉を意識的に動かす。</p> <p>2、基本コンビネーション スキップ、ツーステップ、ターンなど基本的な動きを使った短いコンビネーションを習得する。 フォークダンスやソーシャルダンスの簡単な動きを覚えて、繰り返しの動きの楽しさを体験し、リズム感を養う。</p> <p>3、ダンスプログラムの習得 コンビネーションを組み合わせて構成されたプログラム（2分程度）の振付を覚える。</p> <p>4、グループでのダンス構成と実演 習得したダンスプログラムをグループで構成して発表する。ビデオ撮影を行い、クラスで鑑賞する。</p> <p>*運動可能な服装・シューズで授業に出席すること。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と授業態度（授業への積極性）を特に重視する。作品発表を実技テストとする。</p>	

【授業科目】 スポーツ (トランポリン)	【担当者】 松岡由紀子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツをすることによって運動不足を解消し、体力の保持増進をはかり、精神的ストレスを解放する。 ・ 運動技能と知識の習得。 	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1、トランポリンを行なう前のルール説明 2、トランポリンの移動方法 3、トランポリンの準備と片付け方 (組み立てとたたみ方) 4、トランポリンへの上り方、降り方 5、トランポリンに慣れるための練習 6、垂直跳びとジャンプの止め方 (チェックバウンス) 7、技能練習 <ul style="list-style-type: none"> ・ かかえ跳び ・ 開脚跳び ・ 閉脚跳び ・ 腰落ち (シートドロップ) ・ ひざ落ち (ニーズドロップ) ・ 手つきひざ落ち (ハンズ・アンド ニーズドロップ) ・ 腹落ち (フロントドロップ) ・ 腰落ち—$\frac{1}{2}$捻り—腰落ち (スイブルヒップス) ・ 開脚跳び—腰落ち ・ 前方宙返り—腰落ち 8、連続技の練習 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平常点 (出席と危険もともなうので授業態度重視) ・ 授業中に実技テストを実施する。 	

【授業科目】 健康科学	【担当者】 池森隆虎
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代社会における健康問題について幅広い知識を身につけ、氾濫する健康情報、流行に対して真偽を的確に判断する能力、それを活かすことのできる応用力を備えられるようにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>青年期の健康科学、鈴木 明、共栄出版株式会社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>参考図書、文献等は講義のなかで紹介していく。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. あなたの両親は大丈夫？（そういうあなたにも…） <ul style="list-style-type: none"> －生活習慣病の予防と対策－ 2. 薬をじょうずに使いましょう。 <ul style="list-style-type: none"> －薬の有効な利用法、問題点－ 3. スマートな健康美人になろう！ <ul style="list-style-type: none"> －ダイエットの方法、問題点－ 4. 楽しい海外旅行をするために（「何とかなるさ」じゃ…）。 <ul style="list-style-type: none"> －海外での健康問題、安全対策－ 5. 他人事？エイズや性病について考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> －性感染症の現状と予防－ 6. 人が苦しんでいます…。その時、あなたは何ができますか？ <ul style="list-style-type: none"> －応急処置法、ケガへの対応－ 7. 運動は健康にいいの？ <ul style="list-style-type: none"> －運動の問題点、障害、活用法－ 8. 世の中が変われば病気も変わります。 <ul style="list-style-type: none"> －現代病、新しい健康問題－ <p style="text-align: right;">（順不同）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>小レポート（不定期）と試験</p>	

【授業科目】 スポーツ科学	【担当者】 岡田光弘
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>スポーツを諸科学(物理学,化学,生理学,心理学,社会学^等)の視角から理解し,さまざまな実践に役立てること</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に指定しません</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に指定しません</p>	
授 業 計 画	
<p>スポーツと関わる諸科学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物理学 2. 化学 3. 生理学 4. 工学 5. 心理学 6. 社会学 7. 哲学 <p>etc.</p> <p>の知見について,主にビデオ教材を用いて解説する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席を重視する。授業ごとのレポート,学期末のグループレポートを評価する。</p>	

專門教育科目（1年）

【授業科目名】 社会福祉概論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉とは何か、社会福祉の対象は誰か、社会福祉とはどうあったらよいかを子どもたちや、障害者、高齢者をはじめとした住民の生活実態との関係で学びます。とりわけ、子どもたちや親、障害児・者の真の願いに心を寄せ、保育者に求められる援助とはどうあったらよいか考える力を養います。</p> <p>保育を学ぶものにとって必要な基本的なものの見方・考え方の基礎を学び、後期の児童福祉論、2年次の社会福祉方法論へと結びつけることを目標にします。</p>	
<p>【教科書】 社会福祉概論講義ノート (佐野英司編集)・・・白梅生協で販売 (4月7日(土)の授業開始前に必ず購入して、授業に臨んでください)</p>	
<p>【参考図書】</p> <p>「職安通りの夜間保育園」 (ひとなる書房・・・丹羽洋子著) 「現代の社会福祉入門」 (保育出版社・・・浅井・佐野編) 「心病める人たち」 (岩波新書・・・石川信義著) 「かあさんのおい -ある乳児院の光と陰の物語-」 (廣済堂出版・石亀泰郎写真・文) その他、授業の中で適宜紹介します。また、参考にする論文のコピーを授業で配布します。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>上記授業目標にそって、講義ノートをつくり、それに基づいて授業を進めていきます。授業のはじめと終わりにミニレポートを書いてもらい、自らその日に学んだ事柄の確認ができるよう努めます。(7月はじめにまとめて返却します)</p> <p>授業は、定時に始めます。講義は75分程度でおさめる努力をします。最初の5分間で、その日の授業について考えることをミニレポートで書き、それで出席確認をします。授業の合間になるべくビデオや小グループによるディスカッションを取り入れ、最後の10分間で自分自身の授業のまとめレポートを書きます。またアンケートにより受講学生の声を授業に反映させていきたいと考えています。クラスによっては1限目ですが、遅刻しないよう頑張っていたいただきたいと思います。</p> <p>75分授業を進めるためには、事前自己学習も必要ですし、補講も含めた授業回数の確保は必要となります。学生のみなさんと共に力を合わせ、迫力ある、心に残る授業をつくっていききたいと願っています。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>毎授業の度に提出するミニレポートと出席状況(平常点)30パーセント、定期試験(レポートです)70パーセントの総合点で評価します。</p> <p>したがって、出席、遅刻は非常に重視します。</p>	

【授業科目名】 児童福祉	【担当者】 中山正雄
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 児童福祉問題に関する現状を知り、その背景を学ぶ ② 児童福祉施策の現状と法・制度のしくみについて学ぶ ③ 児童福祉政策の動向と展望を学ぶ 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：竹中哲夫他編『子どもの世界と福祉』ミネルプァ書房 参考書：浅井春夫『子ども虐待と性教育』大修館書店</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の子どもの現状 子どもの権利条約の視点から子どもの現状を概説する 2. 養護・保育問題と国民生活の変容 養護・保育問題が生まれる社会的背景について説明する 3. 施設入所児童の現状と援助のあり方 児童養護施設の入所児童を中心に問題を抱えた児童の現状と援助のあり方について説明する 4. 障害問題とノーマライゼーションの課題 障害のとらえ方とノーマライゼーションの考え方及びその現状と課題について説明する 5. 児童問題をめぐる家族と地域社会 家族の現状をその機能の変化を時代と生活実態、地域社会の変容から捉え、地域社会のあり方を説明する 6. 児童福祉の歴史（戦後史を中心に） 社会福祉法人の設立と役割を、法・制度を中心に概説し、措置制度の意義を説明する 7. 児童福祉の法体系 児童福祉法の理念、法体系を説明すると同時に課題について説明する 8. 児童福祉の機関と施設 児童相談所と児童福祉施設の基本機能と、機関・施設の利用について説明する 9. 児童福祉の仕事とは・・・社会福祉労働論の現代的課題 児童福祉を支える各職種の内容と役割、従事者の資質について説明する 10. 児童福祉の課題と展望 児童福祉改革を概説し今後の課題と展望を考える 	
<p>【評価方法】</p> <p>簡単な中間レポートと定期試験</p>	

【授業科目】 保育原理 I	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 (1) 保育の大切さを知ること。 (2) 保育者の役割の重要性を知ること。 (3) 子どもについて知ること。	
【テキスト・参考書】 『ハンドブック教育・保育・福祉』（ハンドブック編集委員会編（北大路書房） 『新保育原理』 萌文書林岡本富郎他著	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとはどういう存在か。子どもの生活の状況。－子ども観の流れ、様々な子ども観について。 2. 保育とは何か。保育、教育の語源、様々な保育の概念の紹介。保育の意義について。意義とは何か。保育の具体的な意義について。 3. 幼稚園とは何か。幼稚園を作った人フレーベルについて。（当時のドイツ、子どもと親の状況について）。日本の幼稚園の始まり。「学校教育法」「幼稚園教育要領」（総則）の解説。 4. 保育所とは何か。保育所を作った人、ロバート・オーエンについて、（当時のイギリスの状況、子どもと親の状況について）日本の保育所の始まり。「児童福祉法」「保育所保育指針」（総則）の解説。様々な保育所、現代の保育ニーズについて。 5. これから求められる保育者像について。 <p>上記のことを、具体例を紹介しながら話す。ビデオも用いる。</p>	
【評価方法】 試験	

【授業科目】 保育原理Ⅰ	【担当者】 師岡章
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育の基本及び原理のうち、保育の内容や方法に関わる問題を、保育現場の実際を踏まえて理解する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>無藤 隆編『幼児の心理と保育』ミネルヴァ書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業時に適宜、紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期の授業を踏まえて、より実践的な問題を取り上げる。同時に、専門科目の「内容・方法理解」に位置づく授業への導入となるよう心がけたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と子どもの姿Ⅰ ～家庭の変容と子どもの育ち 2. 現代社会と子どもの姿Ⅱ ～変貌する社会と子どもの姿 3. 保育界の現状と課題 ～集団保育施設の現状とその問題点 4. 保育の目的 ～保育所保育指針と幼稚園教育要領 5. 保育の内容Ⅰ ～子どもの生活の構造と保育内容 6. 保育の内容Ⅱ ～遊び理解と幼小関連 7. 保育の方法Ⅰ ～発達に即した援助・指導の理解 8. 保育の方法Ⅱ ～保育形態と指導の在り方 9. 保育の計画 ～カリキュラムの意義と指導計画の作成 10. 保育と環境 ～環境構成の基本と実際 11. 保育実践Ⅰ ～基本的生活の指導の実際 12. 保育実践Ⅱ ～遊び、系統的活動の指導の実際 13. 保育の評価 ～評価の意義と実際 14. 地域・家庭との連携 ～地域子育て支援事業の実際と課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況とテスト</p>	

【授業科目】 保育者論	【担当者】 民秋 言・喜多村純子
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】 1、教職についての意義を理解する。 2、保育者の社会的役割を理解し、かつ職務内容を知る。 3、保育者としての必要な資質について理解し、かつ習得する。 4、望ましい保育者像を明らかにする。	
【テキスト】 ハンドブック 教育・保育・福祉 1999年度版 北大路書房刊	
【参考書】 同 上	
授 業 計 画	
1、保育科学生として「保育」を学ぶことの意味を確かめる。 2、保育者を目指す者としての保育科学生の基本的姿勢を卒業生の声として紹介する。 3、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅰ) 4、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅱ) 5、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅲ) 6、保育者の職務内容を理解する。(Ⅰ) 7、保育者の職務内容を理解する。(Ⅱ) 8、保育者の職務内容を理解する。(Ⅲ) 9、保育者の体験論から学ぶ。 10、保育者として問われる力量を学ぶ。 11、保育者に求められる今日的専門性を学ぶ。	
【評価方法】 ペーパーテスト(ノート等持ち込み不可)	

【授業科目】 教育原理	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>「教育」の意味についての理解を深め、わが国の教育の歴史と今日の教育の基底にある思想を学ばせることにより、学生が将来の保育者、親、市民としてこれからの教育のあり方について考える力を養うことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキスト：「教育原理」（北大路書房 秋山和夫他編）</p>	
<p>【参考書】</p> <p>資料を用意し、随時参考書を紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の教育の現状と課題 今日の教育・保育改革の経過とその方向 2. 人間と教育 人間は教育されうる存在であり、教育が必要であること。 3. 教育の意味と目的 保護、養育として、社会化として、そして価値への覚醒としての教育 教育目的の個人的・社会的・文化的側面 4. 教育の場 — 家庭、園、学校、社会 それぞれの特徴とかわり 5. わが国の教育の歴史（主として明治以降） 「学制」による国民教育制度の成立と、教育勅語による国家主義教育への傾斜 6. わが国の教育の歴史（大正、昭和） 大正自由教育から全体主義、軍国主義の教育へ、そして戦争 7. 第二次世界大戦後の教育 連合国の日本占領、米国教育使節団報告書、日本の教育の近代化と自由化 8. 教育基本法の成立とその思想 日本国憲法と教育基本法の理想、教育基本法の意義 9. 学校教育法、同施行規則、学習指導要領 各段階の学校教育の目的と内容についての規定 教育課程と教育課程の基準 10. 幼稚園教育要領 幼稚園教育の基本と目標および教育課程 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末に試験を行う</p>	

【授業科目】 教育原理	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】 幼稚園、保育所の保育の原理的な内容を知ること。特に、前期の教育原理を受けて、保育、教育思想を理解すること。子どもにとっての保育者の援助の基本となる保育の適時性、今後求められるの子ども像、教育課程、及び教育の社会的、制度的な課題等を知ること。</p>	
<p>【テキスト】 『新保育原理』岡本富郎他著（全員購入－萌文書林） 【参考図書】 『声なき叫びが聞こえますか』岡本富郎著（いのちのことば社）</p>	
<p>授業計画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育、教育思想の必要性（実践と思想との関係について）。 2. 保育、教育思想とは何か。（思想とは何か、人間及び子育ての歴史と保育、教育思想との関係） 3. 保育、教育思想の流れ（ローマ時代、中世、近代の子どもの発見と保育、教育思想） 4. ルソウ、ペスタロッチー、フレーベル、オウエン、倉橋惣三の保育、教育思想 5. 保育、教育思想家から学ぶこと。（生き方、子ども、遊びを中心に） 6. 保育と発達哲学との関係（保育者の関わり方の適時性について） 7. 教育課程と保育の基本的なありかたについて。 8. 今後求められる子ども像について。 9. 保育、教育の社会的、制度的な課題について。 <p>上記の内容を具体的な保育実践との関係で話す。ビデオをも用いる。</p> <p>子どもに信頼される保育者になるため、また深い保育実践ができるようになるために真剣に学ぼう。</p>	
【評価方法】 試験	

【授業科目名】 発達心理学Ⅰ	【担当者】小松 歩
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育者として子どもと関わる際に必要な「発達」に関する基礎的知識を学ぶことをとおして、「発達していく」子どもの姿を、一人ひとりの子どもに即して的確にとらえ、援助のあり方を考えることができる力を養うことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：授業のなかで適宜紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>「子どもが好きだから」という理由だけで保育をすることはできない。</p> <p>多くの学生が初めて学ぶであろう「発達心理学」は、これから子どもを育て、関わっていく上でもっとも重要な基礎的科目の一つといえる。</p> <p>人は生まれてから死に至る生活の全過程で、周囲の環境や人との関係を通して、その可能性を実現していく。この過程で生じる変化を発達と呼ぶ。子どもと関わる場合には、全年齢を見通したライフ・サイクルの視点から、その人の現在の姿・行動がどうあるべきかを判断し、適切な援助をすることが求められる。</p> <p>本講義では、乳幼児から児童期までの子どもの発達の基本的特徴（「認知発達」を軸にする）と、それをもたらす要因について概説する。また、各時期の発達を援助する方法を心理学的観点から探る。</p> <p>プリントやビデオ教材などを活用し、子どもたちの具体的な姿を参考にしながら、一人ひとりの子どもが発達していく姿を正しく理解できるような講義にしたい。</p> <p>およそ、以下のような項目にそって進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「発達」とは何か、発達心理学を学ぶことの意味、「生涯発達心理学」 ②発達のメカニズム ③乳児期の子ども（0～2歳）の発達の特徵 ④対人関係の発達（愛着行動を中心に） ⑤ことばの発達（ことばを獲得するための基礎） ⑥幼児期前半の子ども（3，4歳）の発達の特徵 認知、自己認識、思考の手段としてのことばなど ⑦幼児期後期の子ども（5，6歳）の発達の特徵 認知、行動調整の手段としてのことばなど 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と定期試験による</p>	

【授業科目名】 発達心理学Ⅱ	【担当者】小松 歩
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>発達心理学Ⅰで学んだ「発達」に関する基礎知識をもとに、乳幼児の発達しつつある姿をより実践的に捉えるとともに、保育の場面において発達を的確に「評価」する力を養う。また児童期、青年期の発達の特徴についても理解することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：授業のなかで適宜紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>保育の現場では、さまざまな子どもたちが存在する。</p> <p>本講義では、発達心理学Ⅰで学んだ知識をもとに、具体的な保育の場面において発達しつつある子どもの姿を実践的に捉えること（発達の評価）の意義と、具体的方法について概説する。</p> <p>また、幼児期以降の発達の特徴（児童期、青年期）についても概説し、生涯にわたる人間の発達について考えたい。</p> <p>後期は、およそ、以下のような項目にそって進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①乳幼児期、児童期における「遊び」の発達とその意義 ②児童期の子どもの発達の特徴 <ul style="list-style-type: none"> 認知の特徴、社会性の発達 ③青年期以降の発達の特徴 <ul style="list-style-type: none"> 自己認識、性役割など ④発達と不適応 ⑤発達評価の意義と方法 ⑥まとめ <ul style="list-style-type: none"> 乳児期から児童期までの子どもの姿と発達課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と定期試験による</p>	

【授業科目】 教育心理学	【担当者】 藤野 博
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの心の成長・発達、子ども自身に内在する様々な力と養育者など環境からの影響、働きかけとの相互作用の中で実現される。特に近年では、これまで以上に初期発達における大人と子どもの“コミュニケーション”の重要性が指摘されるようになった。本授業では教育心理学の諸領域について、具体的な保育場面を想定し、保育者の援助・指導法のあり方と関係づけながら考えてゆく。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>子どもとむかいあうための教育心理学概論（会田元明ら著、ミネルヴァ書房）</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教育心理学」で何を学ぶか？ <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが"育ち"、子どもと"関わり"、子どもに"教える"ことの基本を理解する 2. 「発達」 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心はどのように育ってゆくか、子育てや保育のあり方は子どもの育ちにどう関わっているのか、について理解する 3. 「学習」 <ul style="list-style-type: none"> ・"しつけ"や"訓練"による学び、"知りたいという気持ち"や"理解する喜び"から生まれる学び、など学習の様々な形について理解する 4. 「性格」 <ul style="list-style-type: none"> ・性格のさまざまなタイプとその特徴について知り、性格はどのように作られてゆくか、についてを理解する 5. 「適応」 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心の健康とそれを妨げるものについて学ぶ ・子どもの悩みをどう解決するか？ 6. 「評価」 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心の成長や個性をどのように知るか、その方法を学ぶ 7. 「教授法」 <ul style="list-style-type: none"> ・子どものやる気を引き出す教え方とは？ ・ひとりひとりの子どもに合った教え方とは？ 8. 「集団心理」 <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の中で伸びる力について考える 	
<p>【評価方法】</p> <p>試験と出席状況によって評価する。</p>	

【授業科目】 小児保健 I	【担当者】 谷 俊治
【開講期】 1 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、小児の心身の健康のために、保育者として知っておくべき知識や考え方について解説します。特に小児では、心身両面からの健康が重要であることを学んでいただきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>高野 陽 編「小児保健」 ミネルヴァ書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>馬場 一雄 「子育ての医学」 東京医学社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>人間は、生物的存在から出発して、生物的存在→生物的存在・心理的存在→生物的存在・心理的存在・社会的存在→生物的存在・心理的存在・社会的存在・人格的存在(精神的)存在へと成長・発達してゆきます。そのプロセスを理解しながら、成長・発達のいろいろな側面を学んでいただき、その途上で起こるさまざまな問題について解説する予定です。身体発育や運動の発達のような目に見えるものを知るだけでは方手落ちになってしまいます。目に見えない心の発達やその歪みを読み取ることも、保育者にとっては大切なことです。心の悩みは、小児では身体の病気や行動の異常として現れてきます。また、小児は身体の機能や抵抗力が未熟ですので、いろいろな病気にかかりやすいのです。</p> <p>VTR、OHP、テープレコーダーなどの視聴覚機器をできるだけ活用するつもりですし、いくつかの作業を実際にやっていただきます。質問は大歓迎ですが、時間内には全員の質問には答えられませんので、毎回書提出する「出席カード」の裏に質問、意見、感想などを書いていただきます。(これが毎回のレポートとなります。) 次の時間に、質問の答えから始める予定です。一方交通の授業にならないよう学生諸君の協力を期待しています。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>毎回のレポートと期末の課題レポートで評価します。</p>	

【授業科目】 小児栄養	【担当者】 酒井治子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児期において、栄養は身体発育の材料であり、精神・心理発達を援助していく。月齢が小さければ小さい程、保育者がどのように食事に関わろうとするかが重要となってくる。</p> <p>この授業では、乳幼児の食べる行動の発達過程を理解し、それに即した栄養必要量・献立及び調理形態を学ぶ。と同時に、食品の栄養素が生体の中でどのように代謝し、どのような機能を果たしているか、乳幼児の栄養生理の特殊性を理解する。また、障害児における食行動の障害と、リハビリテーションのための援助について理解することを目指す。さらに、社会的なニーズの高い子育て支援や食育において保育士がどのように関わっていけるのか、具体的な例を示しながら進めていく予定である。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>山口規容子・水野清子著『育児にかかわる人のための小児栄養学』 診断と治療社 2,000円 足立己幸監修 『主食・主菜・副菜料理成分表』 群羊社 1,300円</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の身体発育と栄養状態の評価 2. 発達栄養生理と、食行動の発達過程 3. 障害児の食行動の障害とその援助 4. 小児の栄養代謝・食行動の発達に即した食事展開 5. 家族・地域に向けての子育て支援と食育 	<ol style="list-style-type: none"> 1)身体発育 2)栄養状態の評価 1)哺乳・咀嚼行動の発達 2)消化・吸収機能の成熟 3)排泄機能の成熟 4)手指の微細運動の発達と食具を使って食べる行動の発達 1)障害児の食行動の障害 2)援助のための食事形態・食具・食事援助による環境づくり 1)小児の身体発育と栄養所要量の意義 2)生活行動・遊びとエネルギー消費量との関連 3)料理群別主要栄養素の機能 <ol style="list-style-type: none"> ①主食料理と糖質 ②主菜料理と脂質・タンパク質 ③副菜料理とミネラル、ビタミン 4)食事構成の実際—20代の食事，幼児食の食事構成 1)子育て支援における食育の意義 2)養育者への支援—食事相談と食情報の発信— 3)子どもへの食育
<p>【評価方法】</p> <p>①授業への出席及び態度，②筆記試験，③レポートの内容により，総合評価する。</p>	

【授業科目名】 保育内容総論	【担当者】小松 歩・師岡 章・佐々加代子・喜多村純子
【開講期】 1年前期 ・ 1年後期（9月集中）	
<p>【授業目標】</p> <p>この科目は通年科目であるが、9月に集中演習を行なうので、1年の半期で終える。入学後間もない保育科学生が、いずれ専門的各論を学ぶ前に「子どもおよび保育」を学ぶことに対する関心をより広げ、より深める動機づけとなることを目標に開講している。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しない</p> <p>参考書 ①高杉自子・森上史朗他著 「保育内容総論」東京書籍 ②大場牧夫・民秋言・吉村真理子編著 「保育内容総論」萌文書林</p>	
授 業 計 画	
<p>この授業は、保育を多角的に理解することをガイドするために、心理学分野・教育学の分野・保育現場から、それぞれ一人ずつ計3名の教員によって進められる。講義内容はおよそ以下のとおり。</p> <p>■講義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに —この科目の方針、他の科目とのつながりを知る— 2. 幼稚園・保育所の保育の共通理解について (参考文献 ② 序章をもとに) 3. 保育の基本と保育内容 4. 子どもを知ろう—幼稚園の現場から— 5. 子どもの生活 6. 7. 子どもの行動—行動類型と特徴①— 8. 子どもの行動—行動類型と特性②— 9. 子どもの行動助成—保育援助の内容と方法 総論— 10. 子どもの行動助成—幼稚園保育における援助の内容と方法— 11. 子どもの行動助成—保育所保育における援助の内容と方法— 12. まとめ 集中演習のオリエンテーション <p>■演習</p> <p>実際に保育現場で繰り広げられる子どもの活動や保育実践、環境を事例としてグループで推論・観察・考察を行なう。1単位分を集中演習形式で学修する。</p> <p>第1日：学内での講義と演習 第2日：幼稚園あるいは保育園を選択して演習 第3日： 同 上 第4日：学内で考察・まとめを行なう。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>①平常点 ②演習レポート</p>	

【授業科目名】 保育内容 健康（保健行動）	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの健康を守り育てるために必要な事項について理解させるとともに、それらを保育実践に活用するための諸能力と態度を育てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの健康と健康保育の役割、保育者の健康管理 2 子どもの保健管理の考え方とその方法 3 子どもへの保健指導の考え方とその方法 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 村田 務 著：子どものための康保育、2001年度版 内山 源編著：小児ための小児保健ハンドブック、ぎょうせい、1998年。 小林芳文編著：乳幼児健康保育学、福村出版、1993年。</p>	
授 業 計 画	
<p>幼稚園や保育所等で指導展開される「健康」領域のうち保健安全分野を取り扱う。</p> <p>授業では、「どのようにすれば、効果的に子どもの健康を守り育てることができるか」をメインテーマとして、その基礎的な知識と技能について学ぶ。</p> <p>主な学習内容は、①保育健康論（子どもの健康と健康保育の役割）、②保健管理論（主体管理、環境管理、生活行動管理）、③保健指導論（指導内容論、教材論、指導技術論）、④保育者の健康管理、である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、子どもの健康問題 2、保育者の健康問題 3、保育施設における保健活動 4、保健管理の内容と方法 5、保健管理の実習（主として環境管理） 6、保育施設における保健指導 7、保健指導における指導内容、教材及び指導技術 8、保健指導のための教材づくり実習（模擬指導を含む） 	
<p>【評価方法】</p> <p>2回のペーパーテスト、及びレポート（教材づくり）。学習意欲を重視する。</p>	

【授業科目】 保育内容 言葉Ⅰ（言語行動）	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 人間と言語との関係をおさえたとき、保育において「ことば」の領域だけを論じていくと狭い。言語の諸側面について、学生自身の言語能力にも目を向けながら、保育における、保育者と子ども（たち）との間柄の質的転換を考える。思考は行動に現れる、としてとらえていくことにする。子ども、保育者、自分、保育活動、の組み合わせで考える。それぞれの間に、媒介役として機能する、教材についても検討する。	
【テキスト】 佐々加代子、言語習得と人間関係、犀書房 佐々加代子、保育者養成における言語2000年、私製テキスト 佐々加代子監修、手あそび130、私製資料	
【参考書】 佐々加代子、子どもからの贈りもの、犀書房 佐々加代子、発想・想像・表現、犀書房	
授 業 計 画	
<p>講義を主体としながら、ミニ演習（宿題を含む）、演習（レポート課題3含む）を組み合わせながら構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と言語：言語の定義、機能 2. ことばとキャッチボール 3. コミュニケーションの基本的過程 4. 日本語の特徴、敬語 5. 言語発達の標準像（0～6歳まで） 6. 文字学習能力の発達 7. 言語発達に関連する人間関係の要因 8. 言語指導の実際：言語の生活化、教材（絵本、紙芝居、ことば遊び、パネルシアター、素話、ペープサート、人形、視聴覚教材、手遊びなど） 9. 障害児の言語指導：発達の遅れ、自閉症、情緒障害、聾・難聴、口蓋裂、脳性マヒ、どもり・吃音、失語症 10. よくひびく、よくとおる、きれいな音の表現法 11. 演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児の行動観察記録（レポート） 2) 日案（レポート） 3) 日案からの主活動の展開；保育者としての保育場面の疑似体験、2回 4) 発達助成論 12. 保育者養成における“言語”教育 13. 研究法 	
【評価方法】 出席点、平常点（ミニ演習）、レポート3、テストによって行う	

【授業科目】 乳児保育 I	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育の現状を概観し、乳児保育の基本についての理解を深めることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>.....</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>乳児の保育は、保育の基盤・原点である。乳児期は、人間の一生のスタートであり、発達の重要な時期である。同時に、乳児保育は、親子の保育園生活の始まりでもある。親の労働実態の変化、家庭の変貌の中で様々な問題が乳児保育に集中的に表れることにもなっている。これらの点を、以下の項目にそって検討するなかで、深めていきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児期の子どもの発達と保育 <ul style="list-style-type: none"> 0歳（前期・後期）の発達の特徴と保育 1歳（前期・後期）の発達の特徴と保育 2歳の発達の特徴と保育 2. 乳児保育の内容と方法 3. 指導計画と記録 4. 乳児保育をどうとらえるのか <ul style="list-style-type: none"> 乳児保育をめぐる思想・理論的問題 5. 乳児保育の歩みと現状、課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・テスト</p>	

【授業科目名】	音楽Ⅰ（基礎理論）	【担当者】	加宮 葵・平野ミヨ子・村松桂子
【開講期】	1年前期		
【授業目標】	楽典を学ぶ事により、音楽を基礎的に理解し、保育者に要求される音楽的な表現や活動がスムーズにすすめられる様に、という事を目標にしている。		
【テキスト・参考書】	テキスト : 下総皖一「楽典」		
授 業 計 画			
音	音の種類と性質		
譜表Ⅰ（記譜上の約束ごとの理解）	五線・加線・音部記号・音符・付点音符・複付点音符・休符		
音 名	付点休符・縦線		
	拍子の数え方・全休符の使い方・変化記号・速度記号・強弱記号		
	シンコペーション・連符・タイ		
音 程	全音階的音程・半音階的音程・協和音程と不協和音程		
音 階	長音階：調号(#, b) 4個迄		
	短音階：調号(#, b) 4個迄（自然短音階・和声短音階・旋律短音階）		
	音階各音の名称（主音・下属音・属音・導音）等		
調	調と調号 調の相互関係		
移 調	学生がよく知っている曲等を実際に移調し、いろいろなパターンをこまかく指導する		
和 音（伴奏づけの基礎としての和音の理解）	三和音・主要三和音・属七の和音		
	主要三和音の転回・属七の和音の転回		
譜表Ⅱ（記譜上の約束ごとの理解）	省略法・反復記号・Da Capo(D. C)・Dal Segno(D. S)・スラー・テヌート		
	スタッカート・ポルタント・フェルマータ・装飾音符と装飾記号・トリル・発想記号 等		
【評価方法】	期末試験の成績		

<p>[授業科目] 音楽 I (基礎技能) ピアノ</p>	<p>[担当者] 秋山治子他18名 下巻</p>
<p>[開講期] 1年 前期・後期</p>	
<p>[授業目標]</p> <p>読譜力を習得して鍵盤楽器(主にピアノ)の基礎的演奏技術を身につけ、ピアノ曲や幼児曲の演奏ができるようになる</p> <p>1年間の最後の到達目標を(単位取得にかかわる)Ⅲグレード終了に置いて授業を行って行く。その後2年生になり引き続き、半年間の授業が行われることになる。2年生になると初心者も含めて大抵の人がⅣまたはⅣ～Ⅴグレードまで進んで終了するのが一般的である。</p>	
<p>[テキスト]</p> <p>ピアノメソッド: 鷺見五郎 著 共同音楽出版社 (全員用意する)</p> <p>幼児曲のプリント (こちらで配布する)</p>	
<p>[評価方法]</p> <p>期末試験に於いて実技試験を行う。合計3回(1年半の間に3回実施される)の試験のいずれかでⅢグレードを合格しなければならない。又授業の進捗と試験で受けるグレードのレベルは連動しているので受験時に第Ⅱグレードまでしか進んでいない人が試験だけⅢグレードを受験することはできないので日頃コンスタントに練習に取り組んでほしい。尚1回の試験に於いて受験できる段階は1段階のみである</p> <p>入学時のオリエンテーションで配布されるピアノカードに受験曲、配点等が記載されているので詳しいことは省略する。</p>	
<p>[担当講師名]</p> <p>秋山治子・港理々子(前期) 泉晶子(後期)・稲村敬子・大澤美紀・岡益代・</p> <p>掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪玲子・関根美和子・平さわ・中瀬千央・</p> <p>福嶋省吾・西澤和枝・西山裕子・野村真理子・藤島恵子・舛本清美・山本由紀子</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅰ（基礎技能）声楽	【担当者】加宮 葵 平野ミヨ子
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>小グループで基礎的なやさしい発声練習を行う事により、学生の均等な声の上達をねらい、ソルフェージュ等、教則本の予習を義務づける事により、読譜力を身につける事を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト : ソルフェージュ : コンコーネ50番</p>	
授 業 計 画	
<p>① 声の出し方を理解するための、基礎発声の説明と実践</p> <p>② C-dur, F-dur, G-dur, D-dur, a-moll等の練習曲を、スムーズに譜読み出来る様にする。</p> <p>③ 伴奏付練習曲での練習により、メロディーの流れを理解する。</p> <p>④ 無伴奏でも音程を正しく歌える様にする。</p> <p>* 1講時につき ソルフェージュ 15曲 2講時につき コンコーネ50番 1曲 } をマスターする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と出席点</p>	

【授業科目名】 図画工作 I	【担当者】 枝常 弘・八木 紘一郎・花原 幹夫
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>◆前期…保育者として必要な造形表現の基礎技能の習得を目標とします。紙や空き箱、絵の具などの身近な素材を使った造形表現の実技演習を行います。(枝常・花原)</p> <p>◆後期…保育の造形と表現について理解します。(八木)</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していきます。前期と後期、それぞれの第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をします。</p> <p>◆前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者としての造形表現の基礎技能とは何か 2. 基本的な素材とその使い方について 3. 基本的な道具とその使い方について 4. 基本的な材料（描画材など）とその使い方について 5. 平面を描く、つくる基本について 6. 立体を描く、つくる基本について 7. 造形と遊びと科学の関係について <p>◆後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの造形・表現についての理解 乳幼児期のモノを扱った表現の発達と保育 2. 遊びの表現と造形と援助 物語る遊びと機能・科学する遊びを中心に 3. 認識と想像の表現と援助 4. 表現を育む環境と援助 <p>*それぞれのテーマに沿った造形アイデアと技術の演習も行ないます</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルやノートにまとめたものを評価します</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅠ	【担当者】 保育科専任教員
【開講時期】 1年 後期	
【授業テーマ】 各ゼミ共通テーマ：人間尊重の理解と実践	
<p>【授業目標】</p> <p>今日、地域環境、異文化理解、地域紛争、男女の共同参画といった人類共通の課題や、都市化、少子・高齢化と福祉、心の崩壊、家庭の在り方、自然破壊などの我が国の社会全体に関わる課題が生じている。こうした状況の中で、これからを生きる子どもたちにとって、またこの子どもたちに係わる保育者の資質として、「人間尊重」の考え方が重要である。そこで、ゼミナールⅠでは、「人間尊重の理解とその実践」に関する基礎的事項について追究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな観点から、教育・保育・福祉が直面している今日的課題を取り上げて、これらに関連する人間尊重の考え方について理解する。 2 人間尊重に係わる保育内容について理解するとともに、その内容をどのようにして子どもたちに伝えていくかという指導実践に関する基礎的事項について理解する。 	
<p>【授業形態】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 複数のグループに分かれて、担当する教員の専門性を生かしつつ、さまざまな観点から授業テーマに取り組む。 2 授業は、少人数による演習形式でおこなう。 3 文献講読やVTR視聴、実地見学などをもとに、話し合いをおこなう。 	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1 文献講読やVTR視聴等を通して、教育・保育・福祉が直面している今日的課題の概要について理解する。 2 実地見学や観察、調査などの体験学習により理解を深める。 3 教育・保育・福祉が直面する課題が人間尊重の考え方と、どのように関わっているかについて検討する。 4 人間尊重に係わる保育内容について調べる。 5 人間尊重に係わる保育内容の指導法について考える。 	
<p>【評価方法】</p> <p>学習意欲、レポート、小テスト、作品、実技など</p>	

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】小松 歩・師岡 章・船津秋子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>2年次に実施する「幼稚園実習」とともに、幼稚園教諭二種免許状を取得するための必修科目である。幼稚園実習をとおして、幼稚園教育の実際を学び、保育科学生としての学習の必要性を知る。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：「実習ガイドブック」・「幼稚園実習日誌」必携 参考資料として、各実習園の施設要覧・入園のしおり・園だよりなどを適宜使用する。</p>	
授 業 計 画	
<p>1年次の実習は、6日間の「見学・観察実習」という段階の実習である。この実習で、幼稚園での教育の実際を学び、保育者になるためには専門の学びが必要であることを知ってほしい。</p> <p>【1年次】 見学・観察実習のテーマ 「幼稚園の日課について学ぶ」</p> <p>ポイント ① 子どもの活動について学ぶ</p> <p style="padding-left: 40px;">② 保育者の活動について学ぶ</p> <p style="padding-left: 40px;">③ 保育の環境について学ぶ</p> <p>上記のテーマとポイントについては、学内での事前実習オリエンテーションで詳しく説明する。 オリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <p style="padding-left: 40px;">① 幼稚園実習とは（全般的説明）</p> <p style="padding-left: 40px;">② 幼稚園の現場から</p> <p style="padding-left: 40px;">③ 見学・観察のポイント</p> <p style="padding-left: 40px;">④ 実習日誌の書き方</p> <p style="padding-left: 40px;">⑤ 実習に行く前に（心構えや諸注意事項）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 学内オリエンテーションへの出席／受講状況</p> <p>② 実習日誌</p> <p>③ 実習中の出欠席</p> <p>④ 学内反省会</p> <p style="text-align: right;">などを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導（保育所実習Ⅰ）	【担当者】 鈴木佐喜子・佐野英司・船津秋子
【開講期】 1 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育士資格取得には学内の関連教科のほか、保育所実習および保育所以外の各種児童福祉施設での実習を必修とする。実習に入る前に、保育所の機能と役割、実習の目的、実習のテーマ、実習日誌の書き方などを学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価・指導を受ける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携</p>	
授 業 計 画	
<p>今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変わる場合もある。</p> <p>《実習前》</p> <ol style="list-style-type: none"> I. 事務手続きオリエンテーション（全実習） <ul style="list-style-type: none"> 実習園の一覧表、実習個票（履歴書）、身体検査書（健康診断）細菌検査、実習日誌の提出・返却に関わる一連の手続きの説明 II. 実習園の配属 <ul style="list-style-type: none"> 学生が相互に話し合い（教員が割り当てる場合もある）、各自の実習園を決定する III. 1. 「保育所実習Ⅰ」の意義と目的（講義） <ul style="list-style-type: none"> 実習の目的、実習の意義、実習のテーマ。「保育所実習Ⅰ」関連教科と授業内容 2. 実習日誌の書き方 <ul style="list-style-type: none"> 1) 日誌を書く目的、意味、2) 日誌を書く上での諸注意、3) 記録のポイント 3. 実習への心構えと具体的注意事項 <ul style="list-style-type: none"> 1) 実習への抱負や課題、2) 実習に臨む姿勢（服装・健康管理など） IV. 保育における子どもの生活と保育の流れ（講義） <ul style="list-style-type: none"> 1) 今日、求められる保育所の役割 2) 保育所における保育の特徴と日課 3) 保育所の職務内容 V. 実習生を受け入れて－保育現場から－（講義） <ul style="list-style-type: none"> 1) 保育所における子どもの姿、2) 保育所の役割、3) 実習生にのぞむこと VI. 実習日誌の提出・点検・指導 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点</p>	

【授業科目】 保育所実習Ⅰ	【担当者】 鈴木佐喜子・佐野英司・船津秋子
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】	
【テキスト】 『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携 参考資料として各園から出されている施設概要・園だよりなどのパンフレット	
授 業 計 画	
<p>学内での実習関連教科目および「実習指導」の受講後、今年度は11月12日（月）～11月22日（木）の10日間で行われる。</p> <p>1週間の幼稚園実習の体験後、初めての保育所実習である。上記の内容目標と内容の10日間の実習を行う。実習は主に見学・観察、参加の形で行うが、園によっては見学・観察だけの実習もある。また園ごとに子どもの年齢構成、保育時間が異なるので、実習形態や実習中の配属クラスなどは園の方針、実情などに応じて決められる。</p> <p>おな実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。</p>	
【評価方法】 学内オリエンテーション（実習指導）への出席／受講・実習日誌の記録 実習中の出欠席・学内反省会などを総合して評価	

專門教育科目（2年）

【授業科目】 社会福祉方法論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉の専門の援助者によって用いられる社会福祉援助技術を体系的、総合的に理解することを授業目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉における援助技術の定義と位置づけ 2. 社会福祉援助技術の専門性 3. 直接援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) ケースワーク (意義、定義、原則、手段、過程など) (2) グループワーク (意義、定義、原則、手段、過程など) 4. 間接援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) コミュニティワーク (意義、定義、原則、手段、過程など) (2) その他 (ソーシャルリサーチ、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルプランニング、ソーシャルアクション) 5. 関連援助技術 (ネットワーク、ケアマネジメント、スーパービジョン、カウンセリング) 6. 社会福祉援助技術における具体的手段 <ol style="list-style-type: none"> (1) 面接の構造と技法 (2) 記録の書き方 (3) 事例研究の方法 (4) 社会資源の活用 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常授業時のリアクションペーパーと学期末レポートによる。</p>	

【授業科目】 保育原理II	【担当者】 村田保太郎
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>児童福祉法の改正、保育所保育指針の改訂等時代に対応した保育の原理について理解を深め、それが具体的に保育の実践に生きる保育計画・指導計画について学び、保育理念の形成を図る。</p>	
<p>【テキスト】 「指導計画の作成と展開例」 高木義太郎他 チャイルド本社 「ハンディ保育所保育指針」 全国保育士会 筒井書房</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 保育所保育の今日的意義と問題点</p> <p>2 保育所保育の特性と保育計画</p> <p>3 保育所保育指針の分析的検討</p> <p>4 保育計画・指導計画を通して保育所保育の理念を学ぶ</p> <p>5 0歳児から6歳児までの指導計画の構成についての理解を深める</p> <p>7 子育て支援をはじめとして、時代が求める保育ニーズについての理解を深め、その対応について検討する</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>1 小レポート 2 期末試験 3 出席点 等で総合評価する</p>	

【授業科目名】養護原理Ⅰ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 前期	
【授業目標】 ①児童福祉法上の保育所以外の入居施設の基本的な理解 ②児童福祉施設入所児童の社会的家族的背景の理解 ③養護実践の基本原則・・・事例から学ぶ養護原理	
【テキスト・参考書】 テキスト：浅井春夫編『養護原理総論』保育出版社1997年 参考書：養護施設は今編集委員会『いつか愛を知る日のために』ひとなる書房	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護原理Ⅰ」で何を学ぶか――子どもの現状、施設論 2. 親制度の現状と課題 諸外国の児童養護の現状とわが国の現状、課題 3. 児童養護の歴史とホスピタリズム論 わが国の児童養護の歴史、児童の変化、養護論の検証とホスピタリズム論の克服について 4. 児童福祉施設各論－A養護系施設 児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設 5. 児童福祉施設各論－B障害系施設 精神薄弱児、重症心身障害児、肢体不自由児施設 6. 児童福祉施設各論－C治療系施設 情緒障害児短期治療施設、（虚弱児施設） 7. 児童福祉施設各論－Dその他 自立援助ホーム 8. 児童福祉の理念と児童福祉施設の水準 諸外国の児童福祉施設の現状と国際的水準、わが国の位置と役割 9. 施設条件の現状と今後の展望 児童福祉施設最低基準、児童福祉法改正、子どもの権利条約 10. 施設労働の実際と児童への援助関係における関わり方 養護原理の基本に結びつけて 11. 児童養護の原理と課題 養護原理を項目的に整理し、課題を検討する 	
【評価方法】 定期試験のみ	

【授業科目名】養護原理Ⅱ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①養護原理Ⅰを踏まえて、具体的な実践内容を学ぶ ②施設入所児童をめぐる生活課題と援助内容を深める ③施設養護の今日的な課題への理解と施設職員として必要な事項を深める 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：浅井春夫編『養護原理総論』保育出版社1997年 参考書：浅井春夫編『子ども虐待シンドローム』恒友出版、1995年</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの権利条約と養護原理 権利条約の歴史的意義と内容の理解、子どもの権利の現実 2. 児童養護における日常生活の意義 入所前の無権利状況から権利を守る生活への手続きと配慮、基本的生活習慣の習得と大人との関係 3. 高年齢児の養護 思春期の特徴と発達課題、問題行動の捉え方と対応 4. 子ども虐待の現状と発見・援助内容 諸外国とわが国の現状、定義と分類 性的虐待の現実とその社会的背景、虐待を受けた子どもへの対応、援助の基本 5. 性教育の基本的視点と生活の中の性教育 施設における性教育の展開、生活の中で進める視点 6. 子どもの自立の現状と援助内容 自立の時期の高年齢化と自立の内容、幼児期からの自立的養育 施設における自立支援・援助 7. 進路指導とアフターケア 進路指導の現状と課題、リービングケアの課題、アフターケアの現状と課題 8. 施設労働の現実と労働基準法 社会福祉労働の基本的視点、労働基準法問題の検討 9. 21世紀の児童福祉施設像の探究 児童福祉改革の動向と課題、求められる施設職員の専門性 福祉労働者の課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験のみ</p>	

【授業科目】 小児保健Ⅱ	【担当者】 谷 俊治
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、心身障害児を理解し、QOLを高めるためのサポートについて解説します。障害児にとっても、心の健康が重要であることを学んでいただきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>森 和夫 編著「小児保健Ⅱ 障害児の理解と療育・保育」 建帛社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>船越 知行 編著「障害児早期療育ハンドブック」 学苑社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>知的障害児、脳性麻痺児、情緒障害児、自閉児、多動児、てんかん児、ダウン症児、視覚障害児、聴覚障害児、言語障害児、重症心身障害児などの理解と保育のために必要な知識について、医学や心理学、保育、福祉などの立場から解説します。</p> <p>障害児のQOL〈quality of life〉を高めるためには、家族のみではなく、いろいろな機関でのいろいろな職種による発達支援のサービスが必要になってくるのです。障害児の様子はVTRで学んでいただきます。</p> <p>毎時間出席カードを提出していただきますが、裏に質問、意見、感想などを必ず書いてください。これが毎回のレポートとなります。質問には次の時間にお答えします。一方交通の授業にならないように配慮するつもりですので、是非協力してください。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>毎回のレポートと期末の課題レポートで評価します。</p>	

【授業科目】 小児保健実習	【担当者】 水波 佳津子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの健康な発達を保障する保育活動に大切なことは、子どもの発達のみちすじや病気、異常、けがの特徴を知り、ひとりひとりの子どもの日常の状態をしっかりとらえることである。そこで、小児科学や乳児保育で学んだことを基礎に、養護の心得、観察のポイントを具体的に学ぶと共に実技実習を通して実際の扱い方を身につける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>坂田 堯 (日本赤十字社医療センター附属乳児院編) 『乳幼児保育指針』 日本小児医事出版社</p>	
授 業 計 画	
<p>○講義</p> <p>I オリエンテーション 乳幼児養育の理論と技術(基礎と実際)について 子どもの養護と自立→健康発達への支援</p> <p>II 健康状態の観察 A 一般状態の観察(きげん、顔つき、顔色、動作、食欲、睡眠) B 身体各部の観察</p> <p>III 小児に起こりやすい症状とその対応 ・発熱・嘔吐・腹痛・下痢・けいれん・脱水</p> <p>IV 小児に起こりやすい事故 ・窒息事故・熱傷・誤飲・創傷・頭部外傷 ・腹部損傷・骨折・捻挫・脱臼・打撲 ・異物・咬傷・日射病・熱射病・ガス中毒</p> <p>V より健康な子どもを育てる ・積極育児、赤ちゃん体操、外気浴、日光浴 ・個人、集団の健康管理と記録</p> <p>VI 保育者自身の健康管理</p> <p>○実技・実習</p> <p>I 基礎的養護方法(ミルクの飲ませ方、排気の仕方、衣服の着せ方脱がせ方 おむつのあて方、おんぶ抱っこの仕方)</p> <p>II 身体発達、測定の方法、評価の方法 ・身長、体重、胸囲、頭囲の測定の実習 ・発育指数 a パーセントイル曲線 b カウプ指数 ・乳歯、永久歯との関わりと う歯予防について</p> <p>III 病気や異常の見分け方、病児の世話 ・重症であるかどうか保育者としての見分け方</p> <p>IV 感染予防 予防接種 発見と隔離</p> <p>V 沐浴実習 実物大(形状・重量)の沐浴人形を用い、全員が実習する。 (実習終了後、意見・考察・感想文提出)</p>	
<p>【評価方法】 ①筆記試験 ②沐浴、身体測定の実習評価 ③授業時の平常点、感想文</p>	

【授業科目】 小児保健実習	【担当者】 伊藤祥子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】 乳幼児を保育する中で安全であることが第一であるが、子供は活発に運動をしたり、遊んでいる日常生活の中でも、転ぶ・ぶつかる・落ちる等の事故で怪我をしたり、また急に発熱・ひきつけ等の身体症状を起こすことがある。こうした事故が発生したときにあわてずに適切な処置ができるように、救急法や看護の知識・技術を学んでもらうことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】 乳幼児保育指針（日本赤十字社医療センター附属乳児院編）坂田 堯 著</p>	
<p>【参考書】 赤十字救急法教本 日本赤十字社</p>	
授 業 計 画	
<p>1 乳幼児におこりやすい事故について学習し、その予防について考えさせる。</p> <p>2 救急処置の実際</p> <p>病気や事故が発生したとき、最初に行った処置（First・Aid）が適切であったか否かによって病気・怪我の経過に影響を及ぼし、予後にも関係してくるので重要である。下記の項目について、実施方法・一般的な注意・処置の順序などを話し、実習させる。</p> <p>I 事故防止と安全教育・救急箱の利用</p> <p>II 体位（患者の寝かせ方）・異物除去（眼・耳・鼻・咽頭）</p> <p>III 包帯法 （三角巾・巻軸帯・副子の当て方）</p> <p>IV 蘇生法 （気道内異物除去・気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ）</p> <p>実習では、各自が実際に、患者・術者を体験しながら学習する。</p>	
<p>【評価方法】 筆記試験 授業時の実習評価</p>	

【授業科目】小児保健実習	【担当者】山田万智子	
【開講期】2年 前期・後期		
<p>【授業目標】</p> <p>こどもが健やかに育つことを皆が願っています。 それには、こども達の成長発達を理解する必要があります。特に、乳幼児は、うまく状態を訴えられません。病気にもかかりやすく、かかると急に重くなり疾病の進み方が早いのです。又、思いがけないきっかけからこどもの事故は起こります。その時、保育者は何をすべきか、心得てほしい手当と予防を理論にもとづいて実習で勉強しましょう。</p>		
<p>【テキストと参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 乳幼児保育指針 坂田 堯 著 (日本赤十字医療センター附属乳幼児院編) ○ 赤十字救急法教本 日本赤十字社 ○ 人が倒れたら寝込んだら 日本赤十字社 講談社 		
授 業 計 画		
<p>事故の手当と予防</p>		
<p><u>手洗いの仕方</u> <u>消毒法</u></p>	<p>感染予防と保育者の身支度 消毒は病原菌を殺すこと</p>	<p>→ 手指の消毒は重要である。 → 煮沸消毒・蒸気消毒 オートクレーブ・薬物消毒</p>
<p><u>傷の手当</u></p>	<p>傷の手当は出血を止めることと、 細菌感染を防ぐことが大切である。</p>	<p>→ すりきず、きりきず、さしきず 虫さされ、咬傷、骨折、脱臼、 捻挫、熱傷、頭部外傷、頭部打撲</p>
<p><u>止血法</u></p>	<p>人間の全血液量は体重1kg 当り 約80mlで1時にその1/2以上を失うと 生命に危険がある。</p>	<p>→ 止血の仕方 ○ 直接圧迫法 ○ 間接圧迫法 ○ 上の二つの併用</p>
<p>病気のこどもへの対応の仕方</p>		
<p><u>薬の飲ませ方</u></p>	<p>薬は原則として医師の指示で使用する。 ラベルは3回見る。</p>	<p><u>薬の種類と使い方</u> 散薬、錠剤、水薬 座薬の与え方 軟膏の使い方 薬の保管方法</p>
<p><u>氷枕、氷のう、湯たんぽの作り方、与え方</u></p>	<p>気分を爽快にする。</p>	<p>温罨法～保温や血液の循環をよくする。 冷罨法～痛みをやわらげ止血と炎症を おさえる。解熱。</p>
<p><u>体温、脈拍、呼吸の測定法と記録の仕方</u></p>	<p>○ 健康体では体温、脈拍、呼吸が 一定の均衡を保っている。 体に異常があれば変化する。 ○ 記録は疾病の状態や経過を知ること で診断の判定に役立つ。</p>	<p><u>体温の測り方</u> 口腔検温法 直腸検温法 腋窩検温法 熱型や脈拍測定、呼吸測定を行う。</p>
<p><u>体位(寝かせ方)</u></p>		
<p>【評価方法】 実技、テスト、レポート、出席状況で総合的に評価します。 積極的な学習態度を望みます。</p>		

【授業科目】 小児栄養実習		【担当者】 田原喜久江 ・ 林 薫
【開講期】 2年 前期		
【授業目標】 哺乳から始まる人間の食生活は生物としてのヒトから人へ、そして文化を持った人間に成長する。小児栄養実習では、乳汁期の栄養から離乳期、幼児期を経て、青年期に達するまでのライフステージごとに、それぞれの栄養的特性や摂食機能を理解し、保育者としてどのような食事展開が必要であるのかを理論と実習を通じて学ぶ。講義で理論を理解した上で、調理実習・演習により、その理解を深める。		
【テキスト】 実習内容については、小児栄養実習担当者が作製したテキストを使用 1年次の小児栄養で使用したテキスト（小児栄養、主食・主菜・副菜成分表）		
授業計画		
テーマ	講義と実習	
1. オリエンテーション	小児栄養実習の学習内容、調理実習にあたっての基本的心得、衛生的配慮、調理器具の正しい扱い方を学ぶ。	
2. 成人女子の栄養と食事	20代成人を基本にして、栄養バランスを配慮した食事展開を行い、自分の食生活のあり方を学ぶ。	
3. 妊娠・授乳期の栄養と食事	1)受精による妊娠期・授乳期の母体の変化と栄養の特性を理解し、つわり、貧血、妊娠中毒症等に対応した食品選択、調理方法を学ぶ。 2)20代成人を基本にして、妊娠・授乳時の食事展開を実習する。	
4. 乳汁期の栄養と食事	1)生体リズムと生活リズムの関わり、哺乳と授乳による母子相互作用を理解し、それに伴う生活日課の組み方を学習する。 2)母乳栄養の特徴を理解し、授乳法、冷凍乳の扱い方を実習する。 3)人工栄養（育児用ミルク、フォローアップミルク）、また、哺乳行動の発達に応じた哺乳瓶、乳首の選択方法を理解し、調乳法を実習する。 4)離乳準備食としての果汁・野菜スープを実習する。	
5. 離乳期の栄養と食事	1)乳児の摂食機能、感覚機能、運動機能の発達に応じた離乳の意義とその進め方を、離乳の基本を基に理解する。 2)離乳食の進め方を、初期、中期、後期、完了期にわけて実習する。特に、乳汁と離乳食の摂取割合、調理形態、味付けの変化を中心に調理展開する。また、乳児の摂食行動の発達に適した食具と与え方についても実習する。	
6. 幼児期の栄養と食事	1)幼児にとって望ましい食習慣の確立するために、幼児期の栄養の特徴や、齲齲、食物アレルギー、肥満、生活習慣病との関連を理解する。 2)幼児の発達年齢別に生理機能、摂食機能、心理面の発達に応じた食事を同一の食材料を用いて実習し、その配慮点を学ぶ。 3)食行動の発達に適した食具と調理方法との関連を学び、与え方を学習する 4)保育所の食事と家庭の連携、食育の意義やその内容を把握する。	
7. 学童期・思春期・青年期の栄養と食事	1)学童期・思春期・青年期の生活リズム等のライフスタイルと栄養・食行動、そして健康問題（肥満、やせ願望、不定愁訴など）の関連を理解する。 2)子どもの食生活を自己管理する力を養うために文部省等で推進されている総合学習での「食に関する指導」等も理解する 3)児童福祉施設の中で、養護施設をとり上げ、一日の食事で、子どもが参加できる料理、及びおやつを実習する。	
【評価方法】 ①授業への出席及び態度、②筆記試験、③レポートの内容により、総合評価する。		

【授業科目】 精神保健	【担当者】 中川和美
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>精神的な健康を維持・増進するためには、 どのように考えたり行動したりしていけばよいのかについて、 自分や身近なひとを対象にして検討する機会をもつ（こころの実習）</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に指定しない</p>	
<p>【参考書】 精神医学ハンドブック 山下格著（日本評論社） 精神医学サブノート 武正建一編（南江堂）</p>	
授 業 計 画	
<p>精神的に健康であるということは、 精神疾患でないことだけでなく、 こころのさまざまな働きがよくまとまって安定していて、 自分をとりまく人間関係や生活上の課題に対して、柔軟性と積極性をもって適応できているということである。 そして、精神保健とは、 精神的健康の保持・増進をはかる実践活動の分野である。 すなわち、したいと思うことを行うとき、持っている能力を十分発揮するように、 こころが健康であり続けるヒントを得るのが授業の課題である。</p> <p>＊授業内容（予定） 精神保健概論、心身症、神経症、精神分裂病、躁うつ病、摂食障害、自殺、思春期・青年期の精神保健、女性の精神保健、他</p> <p>＊授業では知識を得ることよりも、自分や身近なひとを思い浮かべ授業内容がどのようにあてはまるか、その場で考えることを心がける。</p> <p>＊詳しい知識を得たりまとめたりしたい場合は、参考書を参照する。</p> <p>＊こころの実習なので、ノートを取る必要はないが、授業中配布されるプリントは必ず記入する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中のプリント提出 2 学期末筆記試験（授業中のプリント持参） ！最終授業にプリントを返却し、確認、見直し、復習する ！コピーの持ち込みは禁止、自筆の写しは許可 	

【授業科目】 教育課程総論	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>教育課程とは何か、また保育において何故教育課程が必要なのかを知る。そして教育課程を編成するために知っておいたほうがよいことを知る。</p>	
【テキスト・参考書】 『ハンドブック教育・保育・福祉』（ハンドブック編集委員会編）	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程とは何か（教育課程という用語、カリキュラムの語源－クレッレの意味、教育課程の定義、学校教育の三領域と保育との関係について、子ども像と教育課程との関係） 2. 教育課程は何故必要か。人間の子どもの特徴と教育課程との関係。保育実践の上で教育課程が必要な具体的な理由。 3. 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における教育課程の内容（教育課程、保育の計画、保育計画、指導計画について）。年間計画、期案、月案、週案、日案の基本的な考え。 4. 教育課程と生活との関係。生活保育とは何か（生活教育との関係）、生活の概念、生活の特徴。生活の中の子どもの仕事。 5. 子どもの自由と主体性と教育課程との関係。自由の概念、主体性の概念、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における主体性について（主体、主体的との関係）。 6. 教育課程で基本的に大切なこと、「楽しさ」について。楽しい活動の重要性と楽しい活動の具体例。上記の内容を、具体例を掲げて分かり易く話す。 7. 倉橋惣三の保育構造と教育課程。 	
【評価方法】 試験	

【授業科目名】 保育内容 人間関係（社会行動）	【担当者】 民秋 言
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会的存在としての人間は、社会生活を前提とする。社会のなかで、つまりいろいろな人たちとさまざまなかかわり（人間関係）をもち乍ら生活する（すなわち子どもは育つ）ことを学ぶ。同時に子どもが社会的成長を遂げるために、園生活の中で保育者がどのようににはたらきかけていくか（保育の展開）についても学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>大場牧夫・大場幸夫・民秋 言著『子どもと人間関係 - 人とのかかわりの育ち』萌文書林 ハンドブック教育・保育・福祉編集委員会編『ハンドブック教育・保育・福祉』北大路書房</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育内容・人間関係（社会行動）」という科目が、幼児・保育資格取得課程に設けられている意味を説明する。他の保育内容系科目との関連・共通点と異なる点も併せて説明する。 2. 保育所保育指針と幼稚園教育要領でとり扱われている「保育の内容」「ねらい及び内容」の概略をおさらいする。他科目でもくり返し行われているであろうが重要なところであるから、ていねいに話す。 3. 保育指針、教育要領いずれも保育内容は5領域に分けられ、そのうちの一つが当該科目の「人間関係」にかかわるものであることを話す。併せてとくに保育指針では「養護」と「教育」という側面が在ることも説明する。 4. 人間は社会的存在である。つまり社会の中で人とのかかわりの中で生まれ、育ち、生活する存在である。そのかかわりこそ「人間関係」とよばれうものであり、このかかわりなくしては人間ありえないことを説明する。 5. 社会生活とは共同生活ともいえる。人間が生活することのメカニズムを「人との共同」に焦点を併せるが、その前に生活を行動の連続としておさえ、人間の行動の特徴を何点か明らかにする。 6. 子どもの社会の中で育つことはただ単に肉体的・生理的に成熟を遂げることだけではない。社会的な育ち（社会的成長）を必要とする。その育ちの過程を社会化として捉える。社会的育ちの手がかりを得る。 7. 人間が社会生活＝共同生活をするためには、自分の欲求を充足すると共に他の人の欲求充足をも許さなければならない。そこに一定の生活（行動）のしかたが生ずる。これを文化と呼び、この文化を習得していくことが子どもの社会的成長となる。この過程が社会化である。 8. 子どもにとって文化はさまざまなはたらきをするが、ここでは社会（園生活）規範としての文化に注目する。また、その文化に規程され乍ら展開するいろいろな人間関係の相について説明する。 9. 園生活では「人とのかかわりの育ち」を大切にする。いままで学んだところを礎にして、具体的な子どもの園生活像をえがく。「依存」から「自立・自律」はまずその第一歩である。 10. 園生活における「人とのかかわりの育ち」は集団生活において、もっとも端的にあらわれる。その集団生活を子どものたちにどのように送らせるか、子どもにとっての集団のあり方を考える。 11. 「人とのかかわり」＝人間関係の育ちにかかわる実践的な問題点をいくつかあげることによって本講のまとめとする。保育者が日常の保育の場でしっかりと「人とのかかわり」を育てる力を子どもに習得させ視点を述べる。 	
<p>【評価方法】</p> <p>期末にペーパーテストを実施</p>	

【授業科目】 保育内容 環境 I (自然認識)	【担当者】 近藤正樹・小作明則
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもたちは、自然環境の中で、自然物・自然現象に出会って、知的体験を拡大し、自然法則を感得していく。この教科では、これらの体験と適度に提供できる保育者を養成するために必要な“知識と体験の事前学習”と“教育方法”を含み、保育現場で底力が発揮できる保育者に仕立てたいと思っている。講義ばかりでなく、実習体験を組み合わせ、不得意と得意に導きたい。休日のうち1日を野外実習にあて、神奈川県真鶴町の蔵で体験学習を行う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使用しない。(プリントを配布する)</p>	
<p>【参考書】 参考書は演習や講義ごとに紹介する。</p> <p>基本的なものは大学図書館にある(一部は指定図書扱いなので注意)</p>	
授 業 計 画	
4月 9・11日	幼児のための環境設定①栽培(講義と演習) 畑づくり・土づくり 農具の使い方 施肥と防虫 栽培計画
4月 16・18日	幼児のための環境設定②(講義) ムシに強くなろう 飼育の要点 正解は観察をしてから
4月 23・25日	植物にあかるい保育者になるために①(演習と講義) 身近な雑草の観察 花・茎・葉・根の特徴を知る
5月 7・9日	植物にあかるい保育者になるために②(講義と演習) 検索のしかた・図鑑の使い方 顕微鏡の使い方 花の構造の観察とスケッチ
6月 4・6日	ムシを知っている保育者になるために①(演習) 昆虫(アリ)の構造観察とスケッチ
6月 11・13日	ムシを知っている保育者になるために②(講義) ムシとは何か 昆虫の基本構造 発育と変態 昆虫の生活
6月 18・20日	「これなあに」に強くなるために(講義) 認識と質問との関係 概念形成の質問と対応のしかた
6月 25・27日	「なぜ」「どうして」に強くなるために(講義) 知識の拡大の質問と対応のしかた 「正しい話」と「その話」 解答不能の扱い方
7月 2・4日	自然の変化に気づく(講義) 天気と気象 天気図の見方・使い方 生物季節 天体の物理現象
7月 9・11日	「自然」とは何か(講義) 自然・人為・人工 自然物・自然現象・自然法則 「自然度」が意味するもの
7月 16・18日	自然保護と 自然保護の考え方 生命尊重の意味 「かわいい」「かわいそう」の問題 環境教育
<p>【評価方法】</p> <p>演習の成果・宿題の結果・期末試験の成績を総合して行う。</p>	

【授業科目名】 保育内容 表現 I (文化行動)	【担当者】 加宮葵
【開講期】 2年前期	
【授業目標】 幼児の発達をよく理解し、その発達の段階にそった音楽の表現活動を、スムーズに指導する事のできる保育者を育てる。	
【テキスト・参考書】 【子どもが音楽を好きになるとき】 加宮 葵 著 音楽之友社	
授 業 計 画	
授業のねらい	授 業 内 容
幼児の心と音楽の関係を良く認識する。	1) 教育理論編 ① 幼児教育における音楽について ② 幼児の心の発達と音楽的感覚の開発について
表現としての音楽の認識 発達に応じた望ましい音楽のあり方を認識する	③ 表現としての音楽 ・うたう事のはじまり・音を出す事のはじまり ・幼児の集団とうた ・幼児の集団と楽器
音楽教育の第一歩は、きくという活動から始まる事を認識する	2) 指導と実践編 ① 幼児の音楽鑑賞 [音楽を聞く能力の発達段階の特徴] ② 幼児のうたの指導 ・年少児・年長児
学生が実際に、いろいろな楽器の特徴や奏法を知る事により、使用する目的・場所等への適応、曲のリズム、メロディー、伴奏等への考慮が出来るようにする	③ 幼児の楽器の指導 ・簡易楽器の特徴と奏法 ・基本リズムパターンの習得 ・年少児・年長児の合奏指導 ④ 幼児の創作指導と実践
指導計画・指導案を知る	⑤ 指導計画・指導案 ・年間指導計画・月間指導計画・日案 週案(具体的なうたや楽器の指導計画) ⑥ 教材曲の実践例等
★全出席を原則とする。	
【評価方法】 期末試験の成績・特に出席点を重視する。	

【授業科目】 保育内容 表現 I (文化行動)	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは見たこと、感じたことを色々な時や場で、言葉や身体で表現しようとする。その自発的な表現を育み、子どもの感受性、表現意欲、創造性を豊かに育てるための指導力を養う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>(1) 表現 I (文化行動 a) の中の「身体で表現する」の保育内容での位置づけを知る。保育内容「表現」及び「文化行動 a」とは</p> <p>(2) 身体で表現することの意味を理解し、子どもの身体表現にはどんな意味があるのか、日常みられる表現の姿から幼児の表現の特性を理解する。</p> <p>①表現の意味とその理解 ②身体表現の意味とその理解 ③子どもの身体表現とその意味の理解</p> <p>(3) 幼児の運動、言語、情緒、社会性の発達と関わらせながら日常的にみられる身体表現の発達を理解する。</p> <p>①運動、言語、情緒、社会性の発達と身体表現 ②0～5歳児の身体表現の発達と特徴</p> <p>(4) 保育の場における身体表現活動から身体表現力の変化とその特徴を理解する。</p> <p>①3歳児の身体表現 ②4歳児の身体表現 ③5歳児の身体表現</p> <p>(5) 子どもの身体表現を豊かにひきだし育むために保育者がどのように援助すべきかを理解する</p> <p>①援助の基本的姿勢 ②表現の題材 ③動機づけ ④豊かにとらえる ⑤豊かに表す ⑥援助と言葉かけ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験</p>	

【授業科目名】 総合表現Ⅰ（文化行動）	【担当者】 八木 絃一郎・花原 幹夫・海老原 京子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもが、<u>造形的な表現文化行動様式</u>を獲得できるような援助の内容と方法を理解します。そのための具体的な〈表現文化行動理解〉〈教材理解〉〈援助指導方法〉の三つの基本を主に習得することを目標とします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『新しい表現遊び ―総合的表現活動の指導法―』…八木・枝常・花原・海老原（フレーベル館）</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>子どもの表現文化行動は、身体を媒体にする音楽やダンスなどの表現文化行動と、モノを媒介にする<u>造形的な表現文化行動</u>の両方をミックスさせながら総合的に展開されます。このことを視野に入れた上で、授業では後者の<u>造形的な表現文化行動を中心に</u>、その援助指導方法の基本を学びます。</p> <p>以下のテーマについて授業を展開していきます。</p> <p>第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの表現文化行動とは 2. 子どもの表現文化行動の基本となる援助指導方法の理解 3. 素材、材料から展開する援助指導方法の理解 4. ひとつの造形活動から発展させる援助指導方法の理解 5. テーマ別の造形活動とその援助指導方法の理解 6. 総合表現の援助指導方法の理解 7. 造形的な表現文化行動の指導計画の立て方とその理解 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平常授業での課題を評価します ・ 授業内容すべてを一冊のファイルにまとめたものを評価します 	

【授業科目】 保育内容 環境II		【担当者】 近藤正樹	
【開講期】 2年 後期			
【授業目標】 環境I(自然認識)では教育方法にも触れねばならず、保育者の自然認識体験を拡大する 機会は不十分であった。この事情をのりこえる企画として、身近な自然の認識体験の拡張を 重視した演習「武蔵野の小動物図鑑」の作成をゴールとした総合活動(グループ作業 を中心として)を行う。図鑑類の使い方・顕微鏡の扱い方・接字写真の撮り方などの 技術体験をおりこんで行う。			
【テキスト】 テキストは使用しない。(プリントを配布する)			
【参考書】 参考書として、小動物の分類同定に必要な図鑑類を紹介する。 演習用として教室に、貸出用として大学図書館に常備してある。			
授 業 計 画			
9月26日	グループ研究のすすむ方 テーマ「武蔵野の小動物図鑑」 (講義) 分担研究の選択と企画: 土壌中にすむ動物・草地林床にすむ動物・灯火に集まる昆虫の採集		
この間に	研究材料(小動物)の採集と教員の指導のもとで行う(演習・グループ活動) 採集場所は雑木林(津田塾大)とあき地の草むら(窪東公園)とに分けて分担する それぞれの場所でツルグレン法による土壌動物の採集・幌蚊帳を用いた採集・夜間の灯火採集に分けて分担する		
10月3日	資料(小動物)の種類分け(sorting) (講義とグループ活動)		
10月10日	接字写真・顕微鏡写真撮影の技術指導(演習)と同定(identification)(グループ研究)		
10月17日	資料(小動物)の撮影と同定の続き(グループ活動)		
10月24日	資料(小動物)の撮影と同定の続き(グループ活動)		
11月14日	武蔵野の自然① 地形・地質・土壌・気象(講義)		
11月21日	武蔵野の自然② 自然植生と都市化の歴史(講義)		
11月28日	武蔵野の自然③ 武蔵野の新田開発と自然(現地実習)		
12月5日	「武蔵野小動物図鑑」の企画と作成(講義とグループ活動)		
12月12日	「武蔵野小動物図鑑」の作成(グループ活動)		
12月19日	「武蔵野小動物図鑑」の完成・提出(グループ活動)		
1月9日	「武蔵野小動物図鑑の作成経過と内容」の紹介(演習・研究発表会)①		
1月16日	「武蔵野小動物図鑑の作成経過と内容」の紹介(演習・研究発表会)②		
1月23日	武蔵野の小動物たち(講義)	1月30日	地域学習と自然体験(講義)
【評価方法】 個人演習として、本学近郊の植生地図塗りと野外実習のレポート グループ演習として、「武蔵野小動物図鑑」の作成 それに、平常活動の評価を総合して行う。			

【授業科目】 保育内容 環境Ⅱ	【担当者】 吉川研二
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>自然教育と環境教育を基本に、幼児教育の場としての自然を考える。私たちにあってなじみ深い里山の自然を総合的にとらえ、子ども達の自然観察の場、屋外活動の場としてどう設計し利用するか。環境保全問題も合わせて考える。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『小さな自然観察』思索社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>動植物図鑑、野遊び図鑑、ビオトープや環境教育に関する本など、野外実習と講義に多くの参考書を使用する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>I (講義)</p> <p>II (野外実習)</p> <p>III (演習)</p> <p>IV (講義と演習)</p> <p>V (講義と演習)</p> <p>VI (演習)</p> <p>VII (講義)</p> <p>VIII (講義)</p> <p>IX (演習)</p> <p>X (演習)</p> <p>まとめ</p>	<p>この科目の主目的とねらい 自然教育・環境教育の視点 里山の自然環境と動植物</p> <p>里山の自然体験学習 里山の景観、地形、動植物の観察</p> <p>動植物の整理 (1) 観察、採集した動植物のチェックリストの作成</p> <p>地図の見方、利用の仕方 各種地図と航空写真 地形を読む 高さ／距離を測る</p> <p>土地利用と植生図 地形図、航空写真、現地記録などを基に土地利用図の作成</p> <p>動植物の整理 (2) 動植物の生態を調べる 植物図鑑を作る</p> <p>B i o t o p e (1) 里山の自然 人の生活と共存する自然</p> <p>B i o t o p e (2) 子どもたちにとってよい自然とは</p> <p>子どもの遊び環境 自然の保全を考え、自然を生かし、生きもの達と共生する子どもの遊び環境を作る</p> <p>子どもの遊び環境としての動植物 植物を利用した遊び、創作活動 動物採集や飼育 野外の危険な動植物</p>
<p>【評価方法】</p> <p>植物図鑑の作成 野外実習＋演習の総合レポート＋平常点</p>	

【授業科目】 保育内容 言葉Ⅱ	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 2 年 後期	
【授業目標】 障害児を含めた乳幼児の言語発達過程において発達助成者として位置づく保育者に、さまざまな物的・人的教材を媒介として育む「方法論」の習得を目指す。個及び集団の発達に見合った教材の選択と技法を学び、さらに評価修正技術の習得に置く。	
【テキスト】 菅井健、話しことばの練習帳、晩成書房 佐々加代子、子どもからの贈りもの、犀書房 佐々加代子、発想・想像・表現、犀書房	
【参考書】 佐々加代子、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房 他、随時提供する。資料としては2001年度までの作品集。	
授 業 計 画	
<p>1) よくひびく、よくとおる声の養成 TRCを用いて反復・修正練習をしながら質を高めます。</p> <p>2) 教材を吟味する確かな目の養成 この場合の教材は絵本、紙芝居、童話、素話、パネルシアター、エプロンシアター、ことばあそび、手あそび、人形 その他の遊具など、素材だけでなく、それを保育場面で用いるときに対象児の年齢や場面、保育集団の中で生きるかどうかの判断をした上での内容教材であるかどうかという目を養うものです。ただ単に、自分が「これが好きだから」というだけではなく、選択する視点を学びます。 発想豊かになったとき、用い方はより広がりを見せるようになります。</p> <p>3) 2) で選んだ内容(教材)の実践編として、上にあげた素材を教材として用いること。 実際場面を模擬的に作って実践してみます。 演習実践を通して自分の育ちをみつめ直したりすることや、未熟で課題としていくことなどを見ながら、技法として選出していくこともします。</p> <p>4) どのような状況や場面でも即応判断能力で実践していける応用力の養成 保育場面をコミュニケーション場面としておさえていきます。保育は子どもたちだけではなく、さまざまな人間関係も含みます。どのような人と出会ってもやっていける能力について「自分自身」をみつめることから始めます。</p> <p>演習形態で以下のことを実践してまとめていく。グループ活動でまとめるものとする。</p> <p>1. 絵本 1人10冊×5人=1グループで50冊 年齢別に区分し「言語」能力別に分類、要約、特徴、使用時の留意事項を記載してまとめる。</p> <p>2. 紙芝居 1人5冊×5人=1グループで25冊 絵本と同様にまとめる。</p> <p>3. 創作話作成 保育で大切にしたいテーマとして創作話作成後パネルシアター、紙芝居、絵本などで表現する。</p> <p>4. 手あそびを1グループ50種選定して覚える。選出したものは小冊子にまとめる。</p> <p>表現作品発表会を最終授業で行う。</p> <p>個人の授業を終えた感想をまとめ、グループでとりまとめて上記の作品を提出すること。</p>	
【評価方法】 ①平常点 ②提出課題の量と質 によって行う	

[授業科目名] 保育内容 表現 II (子どもの音楽)	[担当者] 秋山治子
[開講期] 2年 後期	
<p>[授業目標]</p> <p>乳児期から幼児期へ子ども(人間)は自分の声を発声し→自分の声即ち歌声に気付き→自身の声をコントロールする面白さ(=これが歌う楽しさの基本)を体験して行く。同時に世の中の音を聞分け→色々なものから出る音の存在を認識、識別し→楽器という美しく整備された道具から出る音を知り→その音を出すことの出来る喜びを経験し→仲間と声や音を響き合わせる過程を楽しみ→音楽の形を創りあげた時の満足感、達成感を子どもなりに味わう。これら多くの音楽的体験が子どもの精神的成長発達を助け支えていく。</p> <p>授業では保育者として更に身に付けたい音楽の応用力を身につけ幼児の音楽経験の順序性を重視しながら、子どもに無理のない、より良い導き方を実践的に探っていく。尚、子どもの歌曲は毎回うたう。</p>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>教科書 1 「表現」①② 高野雅子著 保育出版社 2 幼児曲の楽譜に関しては授業開始直前に掲示等で指示するので注意すること</p>	
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(翻書、ノト、本頁が掲載されているシラバス持参のこと) <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児曲をうたう 2 美しい合唱曲をうたう 2 各種打楽器に親しみ、音を出してみる、奏法等を知り、基礎練習をする 3 3歳児クラスに於ける楽器あそびを考える 4 " " 5 4歳児クラスに於ける楽器あそびを考える 6 " " 7 5歳児クラスに於ける楽器あそびを考える 8 9 幼児の合奏についてのまとめ 楽器あそびとクラス全体で行う合奏は何がどう違うのだろうか 音を探したり、音に気付いたり、音を作るといった活動と保育音楽の活動とはどう繋がるのだろうか あなたは正しい合奏譜を書いたり、読んだりできる専門的知識を持っているだろうか 10 手あそびで歌をうたうということと、幼児曲を歌うということは何がちがうのだろうか わらべ歌を保育に取り入れるということについても考えてみよう 11 日本語の上に成り立っている“日本のわらべ歌”と西洋音階の上に成立している現代の幼児曲の本質的違いは何だろうか 日本音階の基礎を知り、日本の子どもの乳児期とわらべ歌の自然なつながりについて理解を深めたい 12 保育の中で「子どもが音楽をたのしむために」と「子どもの音楽能力を向上させるために」ということの根は同じ?→世界の代表的な音楽教育家の思想とメソッドについても理解を深めてみよう(教科書参照) 	
<p>[評価] 1 出席状況 2 レポート</p>	

【授業科目】 保育内容 表現Ⅱ (ダンス)	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>身体で表現する活動を通して表現の喜びを体験し、表現技術を高め、表現力を養う。又その文化的、教育的価値を認識する。さらに幼児の指導法についても理解する。</p>	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 身体で表現することの意味や意義を学ぶ。 聴覚障害児が初めて舞台上でダンスを発表する過程を収録したビデオを鑑賞し、身体で表現する意味や意義について考えを述べ、話し合う。</p> <p>(2) 感じたこと、考えたこと、表したいことなどを身体で自由に表現する方法を学ぶ。 テーマ 動きのデッサン 動きの変化 フレーズの動き モティーフの動き 作品構成 中間発表 修正 踊り込み 作品発表 鑑賞 (ビデオ収録) ビデオ鑑賞及び作品の反省と批評</p> <p>(3) 表現Ⅰ (身体表現) や創作活動で学んだことをふまえ、子どもたちが自由にのびのび表現するように保育者が援助する方法を学ぶ。 ①指導案作成 (3歳児、4歳児、5歳児) ②模擬指導 ③反省と批評</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>舞台における実技発表および平常点</p>	

【授業科目名】 保育 表現Ⅱ (デザイン)	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは、様々な目的をもって「描く」「つくる」という造形表現方法をミックスしながら、「デザイン」をしていきます。その内容を理解し、同時にその援助の内容と方法の習得を目標に、演習を中心にして、楽しく授業をすすめていきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>子どもの造形的な表現文化行動の中には、例えば、お店やごっこのように、仲間で協力をしながら、計画し、役割分担しながら身近な素材材料を使って、お店の品物やポスターや看板などをつくったりすることがあります。このような<u>目的性の強い造形的な表現文化行動</u>について、その具体的な援助内容と方法を学びます。</p> <p>以下のテーマについて授業を展開していきます。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業の進め方などについての説明をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デザインとは、ということなのか <ul style="list-style-type: none"> ・デザインの意味や役割について ・デザインと社会の関係について 2. 子どものデザイン(描く・つくるを応用する)の具体的内容について 3. 子どものデザイン(描く・つくるを応用する)とその援助方法について <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例をもとに 4. 計画デザインについて <ul style="list-style-type: none"> ・行事を企画することから実現までを通して 5. 保育者自身のデザインについて 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルorノートに工夫してまとめたものを評価します。</p>	

【授業科目】 保育計画法	【担当者】 師 岡 章
【開講期】 2 年 前 期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児期の発達特性を踏まえた保育の見通しを持ち、指導案が作成できるようになる。</p>	
<p>【テキスト】 金村美千子編 『教育課程・保育計画総論』 同文書院</p>	
<p>【参考書】 文部省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育カリキュラムの全体構造 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領と園の保育計画の関係 ・ 保育計画と指導計画の関係 ・ 指導計画の種類 2. 指導計画の作成過程 <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画－実践－評価－再計画というフィードバックシステムの理解 ・ 指導計画の性格 3. 子どもの実態把握と保育記録 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども理解の本質 ・ 保育記録の方法 4. 指導計画の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中、長期指導計画（年間指導計画、期案、月案）の実際 ・ 短期的指導計画（週案、日案）の実際 ・ 年齢別指導計画（3～6歳児）の実際 ・ 活動別指導計画の実際 5. 指導計画の作成、立案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導実習案の検討 ・ VTR事例からの立案 ・ 立案例の評価 6. まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ これからの幼稚園保育と指導計画の在り方 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況、レポート、作成した指導案などをもとに、後期と総合して評価する。</p>	

【授業科目】 保育計画法	【担当者】 米山千恵
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育の計画の重要さや望ましい計画のあり方について理解を深め、保育の計画の諸問題を整理し計画作成に至る過程、立案上の要点、記録や評価について具体的な事例から学び、また計画作成を試みることによって保育の計画を身近かなものとしてとらえることを目標とする。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>保育所保育指針</p>	
授 業 計 画	
<p>前期の幼児の計画の具体的な展開にひき続き、後期では乳児から就学前までの一貫性のある保育の計画を考慮しながらも、主に保育園の3歳未満児にウエイトを置き、講義と計画の作成や検討、また実際の資料やスライド、VTRを使い授業を進めていきたい。</p> <p>◎保育所の保育の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の計画と保育所保育指針 ・保育計画と指導計画について ・指導計画の実際 <ul style="list-style-type: none"> 指導計画の種類・内容・様式等について ・計画の評価と見直し、記録 ・指導計画と保育条件 <p>◎3歳未満児クラスの指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児の成長・発達をとらえ計画作成の基礎資料を学ぶ ・0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスの指導計画の実際 ・クラスとしての計画と個人・グループの計画 ・家庭から集団生活へ ・職員のチームワークと仕事の役割分担の計画 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業後に提出するレポート 平常試験を総合して評価</p>	

【授業科目】 幼児教育の方法	【担当者】 師 岡 章
【開講期】 2 年 後 期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児のより豊かな成長・発達を支えるために必要な保育方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>上野恭裕編『新保育方法論』保育出版社、2000年</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>八木 紘一郎編『ごっこ遊びの探究—生活保育の創造をめざして』新読書社、1992年 無藤 隆監修『知的発達を支える保育』フレーベル館、1999年</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期の特性 (子どもの育ちをめぐる問題、幼児期の生活の特徴、遊びの理解) 2. 園生活の実際と園の役割 (園生活の内容と構造、子どもの生活の場としての園) 3. 幼児教育の基本 (生活教育の視点、環境を通しての教育、遊びを通して総合的な指導) 4. 園保育の現在 (多様な保育方針と保育方法の実際、保育者のかかわりをめぐる問題) 5. 一斉保育と自由保育 (保育理念と形態論の混乱、一斉指導の功罪、自由と放任) 6. 外国の保育方法の受容 (モンテッソーリ保育、シュタイナー保育、コダーイ・システム) 7. 環境の構成 (間接教育の意義、環境構成のポイント) 8. 遊びの指導 (実態把握の仕方、遊びの予測、遊びへのかかわり方) 9. 総合的な指導 (総合的とは何か、活動の展開のプロセスとその指導) 10. 保育形態と方法 (個人・グループ・集団指導の実際、解体・混合・縦わり保育の実際) 11. 保育者の指導の構造 (指導と援助、共感を軸とした保育者のかかわり) 12. 視聴覚教材の活用 (ビデオソフト・テレビ視聴の功罪、パソコンとのかかわり) 13. まとめ (保育者の役割、保育理念と方法の関連) 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況とテスト</p>	

【授業科目】 乳児保育Ⅱ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育Ⅰの基礎の上に、乳児保育をめぐる様々な問題を取り上げる中で、視野を広げ、乳児保育に関する具体的で多様な側面を理解し、より実践的な力量の形成を目指す。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>.....</p> <p>【参考書】 授業時に紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>乳児保育をめぐるさまざまな問題を考えるため、演習形式を交えて、以下のようなことを行う予定である。その中で各自が、乳児保育をとらえる総合的な視点を深め、乳児保育のあり方、内容、方法についての課題意識を育んでいきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の親の労働実態・子育ての実態と乳児保育 2. 乳児保育の制度をめぐる問題と課題 3. 乳児保育実践における子ども理解 4. 乳児の保育実践の検討①保育者と子どもとの関係 5. 乳児の保育実践の検討②子ども同士の関係 6. 乳児の保育内容－①生活 7. 乳児の保育内容－②あそび 	
<p>【評価方法】 出席・レポート</p>	

【授業科目名】 養護内容	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 養護原理Ⅰ・Ⅱを踏まえて、施設養護の実践内容を学ぶ ② 演習形式を通して、実践能力を養成する ③ 事例の検討を通して、施設児童の理解とケアの方法を学ぶ 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しない</p> <p>参考書：浅井春夫編著『子どもの虐待シンドローム』恒友出版</p>	
授 業 計 画	
<p>現場からの事例をふんだんに使い、具体的なテーマ及び場面に即して検討、ロールプレイを行い、実際に子どもたちとのコミュニケーションのあり方を実習し、子どもと関わることの深さを追求する。</p> <p>事例についての分析・整理を分担し、共に検討し合う姿勢での出席が求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題意識の交流、授業計画、方法の確認 2. 事例研究の方法 事例から何を学ぶか 3. 具体的な事例と検討・以後与えられた事例またはテーマについてグループでレポートし、検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 幼児の状況と事例 ② 小学生の状況と事例 ③ 中学生の状況と事例 ④ 高校生の状況と事例 ⑤ 軽い障害を持つ子の事例 ⑥ PTSDの事例 ⑦ 性的虐待を受けた子の事例 ⑧ 養護施設から変更される子どもの事例 4. 各機関とのネットワークを生かした取組 児童相談所、福祉事務所、保健所、心理学専門員、学校等との連携のあり方 5. 児童養護計画と具体的な内容作り 個別処遇計画、グループワーク、家族支援計画、アフターケアの取り組み 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と討議への積極的姿勢、分担のレポートへの責任</p>	

【授業科目】 保育臨床相談	【担当者】 村田保太郎
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>最近の幼児には健やかな成長・発達に歪みをもたらしている事例が多く、一人ひとりに対応した援助の在り方の理解が必要になってきている。そのため、カウンセリングマインドによる接し方や臨床相談の技法などについて学習する</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「保育カウンセリング」 富田 富士也 ハート出版</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 「保育臨床とは」カウンセリングマインドについて理解を深める 2 「保育の現場で問題になる幼児について」 <ul style="list-style-type: none"> ・保育場面で見られる幼児の「問題」と共感的理解について ・保育の現場でよく出される保護者からの相談内容とその対応 3 「保育者の援助的役割について」 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の自己成長力を促す援助の基本についての理解 4 「具体的な相談例について、相談・助言の在り方の学習」 5 「ロールプレイングによる学習」 <ul style="list-style-type: none"> ・実際場面を想定して臨床相談の在り方を学習する 6 「保育者集団のチームワークと他の専門機関との連携」 	
<p>【評価方法】</p> <p>・日常的な小レポート ・期末試験</p>	

【授業科目】 障害児保育	【担当者】 佐藤利恵子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害をもつこととの保育アプローチにおける基本的技術と知識を理解する。各種障害の実践、保育現場の悩み、親の手記など具体的な事例を通して障害児保育の見方や考え方を深める。</p> <p>また、自らの感性やイメージを磨くことの大切さにも気づかせたい。</p>	
【テキスト】	
<p>【参考書】「保育所における障害児への対応」障害児保育研究会編(全社協)</p> <p>「基礎から実践までの障害児保育」井田範美編(ハコノク)</p>	
授 業 計 画	
<p>(1) 障害児保育の意義と理念</p> <p>(2) 障害をもつこととの基本的理解とその援助</p> <p>ア. 「人間」的理解 イ. 「障害」に関する理解 ハ. 「発達」的理解</p> <p>(3) 親の心理とその援助</p> <p>(4) 障害児保育の実践 - 各種障害のケース具体例から -</p> <p>ア. 知的障害 イ. 肢体不自由 ウ. 広汎性発達障害</p> <p>エ. てんかんその他</p> <p>(5) 健常児との関係</p> <p>(6) 保育所と専門機関との連携</p> <p>ア. 連携の意義とすめ方 イ. ある通園施設における“出前療育”</p> <p>(7) 保健・福祉行政と障害児保育</p> <p>(8) まとめ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>記述試験(持ち込み可)</p> <p>平常点</p>	

【授業科目】 家庭管理	【担当者】 野城尚代
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの成長・発達に大きな影響を及ぼす家庭生活の本質と機能を把握する。家庭生活を中心に、さらに社会に視野を広げながら、家庭生活の経営と管理に関する実態や問題点を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>白井和恵編著『生活の経営』同文書院（予定）</p>	
<p>【参考書】</p> <p>宮崎礼子・伊藤セツ編『家庭管理論（新版）』有斐閣新書 など</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>まず、家庭生活とは何か、家庭生活の経営や管理とは何かについて学ぶ。そして、家庭生活を構成する家族について、世帯構造や意識の側面から家族の変化をとらえる。そのうえで、生活時間、家事労働と職業労働、家計の経済社会における位置と管理、消費生活と消費者問題について理解する。家庭生活と社会とのかかわりとして、コミュニティとの関係、少子・高齢社会、環境問題、情報化社会について考える。また、家庭生活を管理していく上で、離婚や病気や死亡などの危機も考えられるので、家庭生活の安定のための保障についても理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭生活の経営や管理 2. 家族の変化（世帯構造の変化、意識の側面など） 3. 生活時間 4. 家事労働と職業労働 5. 家計の位置と管理 6. 消費生活と消費者問題 7. 少子・高齢社会 8. 環境問題 9. 生活情報と家庭の情報化 10. コミュニティやボランティア 11. 家庭生活の危機 12. 家庭生活の安定と保障 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と期末試験あるいは期末試験に相当するレポートに基づいて評価する。</p>	

<p>[授業科目] 音楽Ⅰ（基礎技能）ピアノ</p>	<p>[担当者] 秋山治子 18名 下 福 薫</p>
<p>[開講期] 2年 前 期</p>	
<p>[授業目標]</p> <p>読譜力を習得して鍵盤楽器（主にピアノ）の基礎的演奏技術を身につけ、ピアノ曲や幼児曲の演奏ができるようになる</p> <p>2年生最後の到達目標を（単位取得にかかわる）Ⅲグレード終了に置いて授業を行っていく。2年生になると1年次に初心者であった人も含めて大抵の人がⅣまたはⅣ～Ⅴグレードまで進んで終了するのが一般的である。</p>	
<p>[テキスト]</p> <p>ピアノメソッド：鷺見五郎 著 共同音楽出版社 （1年次に全員用意する）</p> <p>幼児曲のプリント （こちらで配布する）</p>	
<p>[評価方法]</p> <p>期末試験に於いて実技試験を行う。音楽Ⅰの単位を取得するには「基礎理論」「声楽」「ピアノ」の各分野を全て合格しなければならない。「ピアノ」を合格するためにはⅢグレードの合格が最低必要条件である。授業の進捗と試験で受けるグレードのレベルは連動しているので受験時に第Ⅱグレードまでしか進んでいない人が試験だけⅢグレードを受験することはできない。単位を落とさないようにコンスタントな練習が望ましい。</p> <p>入学時のオリエンテーションで配布されるピアノカードに受験曲、配点等が記載されているので詳しいことは省略する。</p>	
<p>[担当講師名]</p> <p>秋山治子・港理々子・稲村敬子・大澤美紀・岡益代・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・</p> <p>諏訪玲子・関根美和子・平さわ・林康江・藤間洋子・西澤和枝・西山裕子・野村真理子・藤島恵子・</p> <p>舩本清美・山本由紀子</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅰ（声楽）	【担当者】加宮葵・惣田修・豊野雄次郎
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>小グループでの発声練習や練習曲の視唱になれて来た所で一人ずつの視唱にかえてゆき、人の前で(無伴奏・伴奏付)演奏が自由に出来る様になる事を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト ソルフェージュ 16 コンコーネ50番(中声用)</p>	
授 業 計 画	
<p>①45分の授業の中で、ソルフェージュを隔週に1回くらいソロする事によって人前での演奏(無伴奏)に慣れる。</p> <p>②コンコーネを階名で練習をし、声区の転換と声と息のミックスを感じる為に、各母音でこまかく練習をする。又、学生全員の前に出て演奏する(伴奏付)事により、自発的に進んで歌える様にする。</p> <p>③コンコーネをこまかく練習する事により、曲をきれいに、楽しく歌えるようにする。</p> <p>④複雑な音程やリズムのパターンをファイルする能力を養い、読譜力、音楽表現力(正しいリズムや、音程をもって表現する能力)をも養う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、出席点、期末試験の成績</p>	

[授業科目名] 「音楽Ⅱ (ピアノ)」

担当者 秋山治子・稲村敬子・諏訪玲子・関根美和子・林康江

[開講期] 2年前期・後期

[授業目標]

保育のさまざまな音楽活動や場面に対応できる基礎と応用力を身につける

[テキスト]

「おかあさん弾いて！先生うたって！」秋山治子著 アイ企画

「コードネーム・和声・伴奏付け」監修 秋山治子 共同音楽出版社

「キラッとマーチ」秋山治子他著 共同音楽出版社

授 業 計 画

主な内容を以下に記す

- 1 幼児曲の演奏法に馴れる① (声は小さくてよいが、まず歌いながら弾くことに馴れる)
- 2 伴奏法 (機能と声の説明と実践 (I-V-I) (I-IV-V-I))
(伴奏の付け)
- 3 幼児曲の演奏法に馴れる② (これまでより大きな声で歌うことを心掛ける)
(子ども達の様子を見ながら演奏できることを心掛ける)
- 4 機能と声の説明と実践 (I-IV-V7-I)
- 5 マーチ・ラン・スキップ・ギャロップ・ワルツのポイントの理解とステップを学ぶ。
暗譜して弾ける曲を選び、子どもの動きに対してさまざまな言葉がけをしながら演奏できるようにする
- 6 連弾 第一段階 (教師と学生の組み合わせで弾き、連弾を理解しながら楽しむ)
第二段階 (学生と学生の組み合わせで練習を積み、最終授業で発表する)

他に就職対策として、初見演奏の練習方法にも触れる予定です。

[評価方法]

平常点 (出席)

授業の中で行う小テスト

【授業科目名】 音楽Ⅱ（うた）	【担当者】 加宮葵・平野ミヨ子・村松桂子
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>前期：初見視唱と暗譜を義務づける事により、人の前で歌う事に自信が付き、楽しいと感じられる様にする。</p> <p>後期：暗譜した曲を、自発的にソロする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：サルバトーレ・マルケージ op. 15</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分から希望し選択した科目であるため、一人で歌う事を義務づける。 ・一つの音を、持続しながら cresc. したり dim. したりし、自然なふくらみの美しさを学ぶ。 ・言葉がつく事により、発声がむずかしくなる事を知る。 ・全音階の練習 ・暗譜演奏する事により、声がより前になる事を知る。 ・言葉の意味をよく理解し、自分なりの曲想をつけて演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・後期に入ると、学生が非常に積極的に一人で歌う事を希望する様になるため、自然な形で練習曲・歌曲共にややむずかしい曲へとすすめてゆく。 ・付点のスケール習得 ・短調による音階の習得 ・半音階の音のとり方のむずかしさを知る。 ・前期から練習して来た練習曲・歌曲を、暗譜で時間いっぱい歌えるという事で、大きい満足感を得る事が出来る。 ・緊張の中で歌う事を経験するために、全員が任意の一曲を独唱する。（テスト） <p style="text-align: center;">*毎時間楽しい歌曲を歌える様に考えている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席点と実技点）</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅱ（ギター）	【担当者】 小山 勝
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>独奏や合奏、あるいは歌の伴奏に、広く親しまれているギターの演奏の実際を理解し、基本的な演奏を身につけるまでの知識とテクニックを学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「新ギター教本」 小原安正・著（ギタラ社刊）</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ● 基本事項 ギターの基礎知識（歴史、奏法、楽器のタイプ、等） 楽器の保持の方法、楽譜上の記号の理解。 ● 調弦の実際 基本的な調弦方法の理解と訓練。 ● 発音の基礎 右手のタッチ（アル・アイレとアポヤンド）の理解。 左手の構え方と指使いの理解。体、腕、指のコントロールの会得。 ● 音階練習 第1ポジションでの全音階（ハ長調、イ短調）および半音階の練習。 ● 和音とアルペジオ 三～四声の和音パターン（4拍・8小節）とその分散型（アルペジオ）の練習。 ● ソロ演奏の実習 古典派のギター曲の中から、ローポジションによる小品（2～3曲）の演奏実習。 ● コードの理解 簡単なコードの理論。基本的なコード記号の理解とコードネームからの演奏実習。スリー・コードによる簡単な歌の伴奏。 	
<p>【評価方法】</p> <p>実技の習得状態と平常点を併せて評価する。</p>	

【授業科目名】 図画工作Ⅱ（版・木工）	【担当者】 花原 幹夫・飛山 裕幸
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>図画工作Ⅰで学んだ保育者としての造形表現の基礎技能の中から、特に「版・木工」を通して、それぞれの表現の知識と技能の専門性を高め、表現の広がりをめざすことを目標とします。演習を中心に楽しく授業をすすめていきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していきます。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと授業の進め方などについての説明をします。</p> <p>◆版</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 版の表現の意味・役割について 2. 版を応用した表現とその種類について 3. 版を応用した表現の実技演習（例：シルクスクリーン印刷を使って） <p>◆木工</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 素材「木」について（素材に親しむことと、遊びについて） 2. 木工の表現の意味・役割・種類について 3. 木工を応用した表現とその種類について 4. 木工を応用した表現の実技演習（例：枯れ枝等を使って） <p>◆作品の展示（プレゼンテーション）について</p> <p>*版と木工を応用して製作した作品を皆で協力して展示します。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実技演習で製作した作品と、展示（プレゼンテーション）したものを評価します。</p>	

【授業科目】 体育 I	【担当者】 若松美恵子・有川いづみ
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児の運動に関する発達をふまえ、必要な運動の方法とその指導法を学ぶ。また保育者として適切に運動が行えるよう資質の向上および体力の増強をめざす。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期は「自ら動ける身体作り」をめざし、将来保育者として創造的、自主的に動けるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 運動の極限までのびのびとリズムカルに身体を動かすことができるようにする ② 自分で多様な動きを豊富にみつけ動けるようにする ③ 動きの連続がなめらか、かつ起伏をもったある感じをとらえた一連の動きを作れるようにする ④ 表現したいものになりきって動き、身体で表現できるようにする <p>内容；オリエンテーション、幼児体育概論 体操 遊戯 基礎的ステップ 動きの開発（身体の部位、運動の種類の種類から）－1人で、2人で、3人で－ある感じをとらえた一連の動き作り</p> <p>後期は幼児の身体的、精神的、社会的発達をふまえながら特に体力、運動能力の発達について理解を深める。この理解の上に子どもの活発な身体運動を促し、援助するという立場から指導法について学ぶ。</p> <p>内容；幼児期の体育の意義と内容 体力の発達 運動能力の発達 体育指導の目的とねらい 運動内容と指導上の留意事項 体育の今日的課題 運動あそびの教材研究と指導法（体操 フォークダンス 鬼ごっこ 模倣遊び ボール マット 跳び箱 鉄棒 平均台 輪 縄 伝承遊び 遊びの創作）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>前期に実技試験を2回行い、学年末の筆記試験の成績と合わせて評価する。</p>	

【授業科目】 体育Ⅱ	【担当者】 榎本 至
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、運動の得意な人も、そうでない人も、「体を動かすことを一緒に楽しむ」ことを第1のテーマとします。この授業を通じて、運動の楽しさや爽快感を、なるべく実感してもらいたいです。皆さんの中には将来教育の現場で働く方が多いことと思われます。そんなときに、まずは自分が運動を楽しめなければ、子どもに運動を楽しませることは出来ないと思うからです。そして、第2のテーマは「工夫して遊ぶ」ための豊かな発想をさらに磨くことです。「テニスラケットとボールがないと遊べない」とか、「人数が足りないからサッカーが出来ない」ではなくて、身の回りにあるものを使って、その場の人数で、楽しいあそびが出来るようなしなやかで豊かな発想が、指導者には必要です。フープ、ボール、なわ、マット、跳び箱、といった、幼稚園や保育園などによくおいてあるものを使ったり、ときには自分の身体だけを使ったり、いろいろと紹介したいと思います。</p>	
【テキスト】 特に指定しません	
【参考書】 特に指定しません	
授 業 計 画	
種目	内容
ソロ・ペアワーク	遊具を用いない様々な遊びを通じて、基礎体力・調整力・柔軟性などの様々な身体能力を、自分の身体を使って確認する。半期間の授業の導入として実施する。
フープ	フープを用いた様々な運動を、極めて単純かつ簡単なものから複雑で難度の高いものまで、徐々にレベルアップさせながら行う。
フライングディスク	フープ同様、手首を用いたスナップ動作を中核的技術に置くフライングディスクを用いた運動を行う。投技術の発達における手首のスナップ動作の重要性に触れる。
縄跳び	短縄・長縄を用い、様々な跳躍を行う。特に長縄では、縄の数を増やし、配置のバリエーションを徐々に替えながら、目と身体運動の協調能力の重要性に触れる。
マット	マットを用いた様々な運動・遊びを通じ、発達過程において重要な身体の回転感覚、跳躍感覚を養う重要性について触れる。
ボール	様々な運動を通じ、手先だけではなく身体のあらゆる部位を用いてボールをコントロールする感覚を養うとともに、極めてシンプルなルールによる様々なゲームを行い、ボールゲームの導入に必要な要素を考える。
跳び箱	跳び箱を用いた様々な運動・遊びを通じ、発達過程において重要な身体の回転感覚、跳躍感覚を養う重要性について触れる。
ユニホック	ボールゲームの発展型として、自分の身体ではなく用具を介してボールをコントロールするゲームの導入について考える。
講義	資料をもとに講義を行う。
<p>【評価方法】</p> <p>出席を重要視する。何らかの都合により長期間出席／参加できない場合には相談に応ずる。評価は、出席状況とともに、全授業終了時に提出を義務づけるレポートによって行う。</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 保育科専任教員
【開講時期】 2年 前期・後期	
【授業テーマ】 各ゼミ共通テーマ：人間尊重の理解と実践	
<p>【授業目標】</p> <p>今日、地域環境、異文化理解、地域紛争、男女の共同参画といった人類共通の課題や、都市化、少子・高齢化と福祉、心の崩壊、家庭の在り方、自然破壊など我が国社会全体に関わる課題が生じている。こうした状況の中で、これからを生きる子どもたちにとって、またこの子どもたちに係わる保育者の資質として、「人間尊重」の考え方が重要である。</p> <p>① 人間尊重という視点から、教育・保育・福祉が直面している今日的課題について理解を深めるとともに、その解決に必要な能力を身につける。</p> <p>② 教育・保育・福祉の課題に係わる指導内容を適切に指導するために必要な実践的能力を高める。</p>	
<p>【授業形態】</p> <p>① 複数のグループに分かれて、担当する教員の専門性を生かしつつ、さまざまな観点から授業テーマに取り組む。</p> <p>② 授業は、少人数による演習形式でおこなう。</p> <p>③ 文献やVTRソフトの検討、調査、見学、観察、指導案や教材の作成、模擬指導の実施など、具体的な保育実践に即して演習する。</p>	
授 業 計 画	
<p>① ゼミナールⅠの学習成果をもとに、文献やVTRソフトの検討などにより、学習課題を明確にするとともに、教育・保育・福祉が直面している課題について理解を深める。</p> <p>② 教育・保育・福祉の課題に関わる事項について、調査や見学、観察などを実施して具体的に理解する。</p> <p>③ 人間尊重という視点から、教育・保育・福祉の課題について解決策を考える。</p> <p>④ これらの学習成果をもとに、人間尊重に係わる指導内容を適切に指導できるようにするために、指導案や教材の作成、模擬指導などをおこなう。</p> <p>⑤ さまざまな観点から取り組んできた「人間尊重の理解と実践」についての学習成果を各グループごとに発表し、演習の成果を共有する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学習意欲、学習態度、レポートなど</p>	

[授業科目名] ゼミナールⅡ	[担当者] 秋山治子
[開講期] 2年 前期・後期	
<p>[授業目標]</p> <p>1 どんな保育場面にも対応できるような音楽表現力と指導力を一人一人が得る</p> <p>2 音楽を知る、わかる、近づく、工夫する、そして楽しむ</p> <p>3 上記1、2で培った力で一人またはグループで小論文を書く</p>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>ゼミの中で適宜指定・紹介する</p>	
<p>[授業計画]</p> <p>1 大学の中にある色々な幼児向けの打楽器や旋律楽器に親しむ</p> <p> 特にミュージック・ベルを中心にして、打楽器を幼児の年齢発達に合わせて導入する方法についてゼミ全員で取り組みたい。そして幼児の合奏の中に無理なく楽しく取り入れるにはどうしたらいいかについてを共通研究課題としたい</p> <p>2 白梅祭でミュージックベルの演奏をする</p> <p>3 (子どもの) 音楽についての疑問点や問題意識を出し合い、各自またはグループ全体でテーマを立てて研究にとりかかる</p> <p>4 オーケストラ曲の中に出てくる楽器や旋律、リズム型などを何度も聴きあい、採譜して、工夫しながら幼児向けに編曲する</p>	
<p>[評価]</p> <p>ゼミ活動への参加状況(出席)とレポート(2年次1回目の授業に提出する)</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2年前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>「いのち」の尊さをどのようにして幼児に教えたらいいかを探る。</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「いのちとは何か」を調べる。(生きること、死ぬことについて学ぶ) 2. 「いのちの尊さ」を知る。 3. 生物、虫、人のいのちについて学ぶ。 4. 幼稚園、保育園の子どもの観察をする。(虫や動物に対する言葉を集める) 5. どのようにしたら「いのちの尊さ」を教えることが出来るかを探る。 <p>以上のようなことを、全員で話し合っ決めてたい。</p>	
【評価方法】 出席、発表、レポート、観察、等を基にして総合的に評価する。	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 加宮葵
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 コンサートでの演奏、ミュージカルの公演など、自分たちの声を生かした発表の場を一回でも多くもつこと。（実際に人の前で演奏する事により、自分の声の改善されていない部分を再認識し、より良い声へ向けて研究・努力すること）	
【テキスト・参考書】 : 加古三枝子 「歌のうたい方」(参考書) : 歌曲・ミュージカル等 テキスト多数 * 研究室にすべて用意してあります。	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールⅠで、基本姿勢、基礎発声等を学びやや声が出るようになったゼミナールⅡでは、一人一人の声質にあった歌曲等のやや専門的なレッスンに入ります。それと並行してミュージカルの具体的な練習に入っていきます</p> <p>専門的なレッスンの成果は、ゼミ員の自主的な催しとして、</p> <p style="padding-left: 40px;">クリスマスコンサートや新春コンサート等</p> <p>演奏の形で発表します。</p> <p>又 子どものミュージカルやディズニーパラダイスなどを研究し（時間が、ある場合のみ）幼稚園・保育園・児童館等で公演したりする事もあります。</p> <p>こまかい授業のすすめ方や、ミュージカルの選定（ゼミナールⅠで決定されている場合を除き）はゼミのメンバーの顔ぶれによって、話合いのうえ決定します。</p>	
【評価方法】 平常点	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 小松 歩
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児期の子どもの育ちを、具体的な実践場面の観察をとおして理解する。 2 子どもの遊びを分析的にとらえる力を養う。 3 調べること、考えること、わかることの楽しさを知る。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業のなかで適宜、紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">「遊び」をとおして子どもの育ちと援助について考えよう</p> <p>ゼミナールⅠで進めた「子どもにとっての遊びの意味」の学習を、具体的な遊び場面にテーマを絞ってさらに深めます。</p> <p>まず各自が興味をもつ分野についてレポートをし、基本的知識を整理しながら、その分野に関して、今の子どもの「育ち」の実状や、影響する諸問題などを明らかにします（新聞記事や文献の講読など）。</p> <p>また、幼稚園や保育所などで具体的な生活や遊びの様子を実際に観察し、実際の子どもたちの「育ち」について理解を深めます。</p> <p>そして、文献などで学んだことと比較しながら、現代の子どもが主人公として健やかに「育つ」ために必要なことは何か、私たちにできること（援助）は何かなど、一緒に考えてみましょう。</p> <p>研究テーマとしては次のようなものが考えられる。</p> <p>「子どもにとっての保育環境」：子どもは遊びにおいて遊具などの環境をどうとらえ、どのように関わっているかを、子どもの視点から理解し、発達に応じてどんな設定をしたらよいか考える。</p> <p>「ごっこ遊びの分析」：幼児期の中心的な遊びである「ごっこ遊び」は、子どもの生活経験が反映している。実際に行われている「ごっこ遊び」のテーマや内容から、今の子どもの経験内容と、何が育っているのかを考える。</p> <p>どんなテーマにするかは、ゼミメンバーと相談して決定したい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミ活動への参加姿勢と研究テーマへの取り組み</p>	

【授業科目】 ゼミナールII		【担当者】 近藤正樹	
【開講期】 2年 前期・後期			
【授業目標】 身近な自然現象について、認識を深めるための体験を大切にしながら、まだ知らなかったことや、疑問を解くために、個人単位で研究をすすめる。この学習を通して、研究の企画・実施・論文の書き方・発表(口頭発表およびポスター発表など)のしかたについて体験することになる。知らないことを知るためには“勉強”や“した調べ”という活動と“研究”という手段がある。後者についての体験を身につけてほしい。			
【テキスト】 飯田良治・民秋 言編 「課題研究・ゼミナールの手引」 碩文書林 刊 田中未来 編著 「保育研究の視点と方法」 川島書店刊			
【参考書】 随時に紹介する			
授 業 計 画			
4月10日	研究テーマの検討 テキスト「保育研究の視点と方法」 持参	10月2日	研究のまとめ① () () () ()
4月17日	研究テーマと研究計画書の提出 文献紹介① () () () ()	10月9日	研究のまとめ② () () () ()
4月24日	文献紹介② () () () ()	10月16日	研究のまとめ③ () () () ()
5月1日	文献紹介③ () () () ()	10月23日	研究のまとめ④ () () () ()
5月8日	文献紹介④ () () () ()	10月30日	研究論文の提出
6月5日	研究状況報告① () () () ()	11月13日	研究論文の指導
6月12日	研究状況報告② () () () ()	11月20日	文献紹介⑤ () () () ()
6月19日	研究状況報告③ () () () ()	11月27日	文献紹介⑥ () () () ()
6月26日	研究状況報告④ () () () ()	12月4日	文献紹介⑦ () () () ()
7月3日	文献紹介⑤ () () () ()	12月11日	文献紹介⑧ () () () ()
7月10日	文献紹介⑥ () () () ()	12月18日	研究論文評
7月17日	文献紹介⑦ () () () ()	1月8日	口頭発表のしかた 研究要旨の提出
7月23日	文献紹介⑧ () () () ()	1月15日	ゼミ内の口頭発表会① () () () () () () () () () ()
9月25日	論文の書き方 テキスト「課題研究・ゼミナールの手引」 持参	1月22日	ゼミ内の口頭発表会② () () () () () () () () () ()
【評価方法】 学習態度・研究計画と方法・論文・口頭(ポスター)発表などの成果を総合して行う。			

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>教員と少人数のメンバーとともに、さまざまな活動をとうして、“創造”すること、“表現”することをねらいとする。考えられる人、行動できる人、創造できる人、をめざすことにある。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>佐々加代子、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>随時提供する</p>	
授 業 計 画	
<p>保育者はさまざまな子どもたちと、さまざまな人たちとさまざまな状況で出会う。そのような状況にあっても、その時、その場で瞬時に判断して対応することが求められる。保育者であろうとすることは、同様に、ひとりの人間としての自分自身をみることになる。どのような人間関係を切り結んでいるのか。その内容は……。さまざまな人間関係の場面を、コミュニケーション場面としておさえ、その時々、発信者としての自分、受信者としての自分の内容を見つめるということをする。また、子どもと親、子どもたち同志、などのさまざまな人間関係のなかでの関係のみかた、その上での関係の展開法・かかわりかたなどについて考えられる人をめざしていく。</p> <p>そのために以下の活動をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の観察（新生児からを含む） 2. 障害児の観察 3. 幼稚園児の幼稚園における遊びの観察 4. 1～3の場面でのかかわり、ともに活動することをとうして、発達についての目を養成 5. さまざまな場面の設定による、さまざまなかかわりの工夫の検討 6. 教材の活用とその習熟（絵本、紙芝居、素話、パネルシアター、人形など） 7. 発信者としての技量のひとつとしての、音声、朗読などの養成 8. 発信者としての技量のひとつとしての、“想像から創造”の表現法の工夫 <p>いずれも、保育者としての質につながるものとしておさえている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点で行う</p>	

【授業科目名】	ゼミナールⅡ	【担当教員】	佐野 英司
【開講期】	2年 前 期 ・ 後 期		
【授業目標】	<p style="text-align: center;">ゼミテーマ : ノーマライゼーションの追求</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白梅が存在する小平市周辺地域に焦点を当て子どもたち、障害者、高齢者など住民の生活実態がどうなっているのか、そこから派生する生活・福祉ニーズを学び、生活援助の視点、援助実践の方法を考察します。 2. その際、これまで6期にわたる佐野ゼミ学生の研究到達点、とりわけ昨年まで2年間手がけた「育児・子育て調査」から学びます。 3. ノーマライゼーションの理念を学び、その視点から福祉・保育制度を検証し学びます。 4. ゼミ学生一人ひとりが自ら居住している自治体に目を向け、同じく検証します。 5. 1年次のゼミナールで学んだこと、合宿をはじめ体験学習した成果や読了した文献をもとにゼミテーマの追求を図ります。 		
【テキスト・参考書】	ゼミ開講中に必要に応じ指示します。		
【授業計画】	<p>授業目標にそって、具体的にどう進めるかについては4月最初のゼミで決めます。昨年に引き続いて育児・子育て調査を実施するか否かを含め学生と相談しながら授業計画を立てていきます。</p>		
【評価方法】	<p>ゼミへの出席状況、自らも加わって決めた研究テーマ遂行への積極性、協力度等を重視し決めます。</p>		

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>より良い乳児保育を求めて ゼミナールⅠの学習を基礎に、さらに乳児保育の内容や乳児保育をめぐる問題を具体的に学習し、乳児保育についての理解や具体的な課題意識を深める。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に適宜、紹介する</p> <hr/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 今日の乳児保育をめぐる現状と保育実践</p> <p>①乳児保育実践の検討</p> <p>②乳児保育をめぐる問題の学習と検討</p> <p>の2つの柱のもとに、乳児保育の内容・方法や乳児保育をめぐる様々な問題を取り上げた文献、論文の学習、検討を行う。</p> <p>2. 各自の研究関心を出し合い、一つのテーマに絞って、主体的に調べたり、学習したことをまとめていく。</p> <p>過去のゼミ・テーマー ・東京の延長保育、・親と保育者の関係、 ・乳児の遊びとおもちゃ、・共働きの子育てと保育所 ・地域子育て支援につて、・育児用品と子育て</p> <p>適時、保育園の見学や保育に関する文献の学習をを行い、乳児保育実践のあり方や乳児保育をめぐる問題についての理解を深める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミ活動への出席、参加姿勢、研究テーマへの取り組み</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 民秋 言
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかの年中行事 私たちの生活には、さまざまな年中行事があります。それは、さかんに行うものもありますが、あまりさかんでないものもあります。社会全体からみるとさかんに行われているものもありますが、自分にとってはあまり意味のないものもあります。日本に伝統的なものもありますが、わりに近いときに外国から入ってきたものもあります。いずれにしても、私たちの生活の節目の役割をもっています。</p> <p>こうした年中行事は保育のなかにもみられ、そして保育の節目の役割を果たしています。本ゼミナールでは、この年中行事を4月から順次取りあげ、その意味を考え、保育カリキュラムを組み立てる勉強をします。</p>	
<p>【テキスト】 萌文書林『子どもに伝えたい年中行事・記念日』萌文書林編 萌文書林『幼稚園・保育所での研究の進め方と実例』民秋言編著</p>	
授 業 計 画	
<p>(1)年中行事は私たちの生活のなかで、どのような位置を占めているかを考える。 1年間12か月あるいは春・夏・秋・冬の四季ごとにさまざまな年中行事がみられる。私たちの生活は、従来は、この年中行事によってリズムが保たれていた。今日の生活では、どのような位置を占め、役割を果たしているのか考える。</p> <p>(2)年中行事にはさまざまなものがあることを理解する。 年中行事に、ともすれば歴史的に古いものと思われがちである。しかし、その内容を検討するとさまざまなものがあることに気付く。宗教に関するもの、ヨーロッパからの伝来のもの、政治的ないみをもつもの、実生活に直ちにつながるものなど、いろいろなポイントから整理する。</p> <p>(3)今日の生活で、直に影響をうけている年中行事をまとめる。 上記(2)のなかで、いまの生活の中で直接影響をうけている年中行事をとりあげ、その意味をしっかりとめてみる。</p> <p>(4)保育の中に導入すべき年中行事のいみを検討する。 いまの保育には多くのそしてさまざまな年中行事が組み込まれている。それぞれにはどのようないみがあるのか、その検討をしっかりとしたうえで、保育の中に導入すべきものはどれか、を考えてみる。</p> <p>(5)保育カリキュラムの中に位置づく年中行事のあり方を考える。 保育の中の年中行事は、そのカリキュラムとの関連で、捉えてみる必要がある。カリキュラムの流れの中に無理なく組み込まれていることが大切だからである。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常授業の成績による</p>	

【授業科目名】ゼミナールⅡ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次のゼミナールの成果を踏まえ、個々人のテーマを設定し、課題を研究しまとめめる力を養う</p> <p>問題をより深く掘り下げ、原因、背景から課題、展望に至る児童福祉の研究と実践の姿勢を養う</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：西澤 哲訳『子どもの虐待と被虐待児への臨床心理的アプローチ』子どもの虐待防止センターその他必要に応じて紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 1年間の計画の確認</p> <p>1年次に学んだもの、個々の問題意識について検討する</p> <p>個々人の課題に関連して、グループ化し、研究方法を検討する。</p> <p>2. 事例研究を通して虐待を受けた子どもの理解とケアについて深める。</p> <p>保育現場における被虐待児の保育について特に留意することをまとめる</p> <p>3. 情緒障害児短期治療施設でのゼミ合宿を通して施設での被虐待児や親への援助の実際を学ぶ。</p> <p>4. 子ども虐待への保育所における援助と介入について検討し、保育者のかかわり方をまとめる。</p> <p>1年次に児童虐待の理解を深めたことを基礎にして、虐待を受けた子どものケアに重点を置いて、研究していくものとする。</p> <p>2年生で行う各実習において保育や養護に困難な子どもに注目して検討の参考にする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>参加姿勢</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>大きくは『子どもの造形と遊び』について、協同で学びます。共通の具体的なテーマと目的にそって、各自が主体的に問題意識をもち、協同しながら実践的に学んでいきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>◆特に「保育とデザイン」というアプローチで活動をすすめていき、「モノのデザイン」（造形におけるデザイン）と、「コトのデザイン」（計画デザイン）を考え、さらに、「子どものデザイン活動」をどうとらえていくかを、保育現場などで実践的な方法論を用いながらすすめていきます。</p> <p>◆具体的なテーマ・目的・方法などについては、こちらの提案とゼミナールメンバーの話し合いの上、調整して、初期の段階で決定していきます。</p> <p>◆活動の運営については、ゼミナールメンバー各自が主体的に役割を分担し合い、自分たちの立てた計画スケジュールと、こちらのスケジュールとを調整しながら行なっていきます。</p> <p>★ゼミメンバー相互で常に連絡連携をとり合いながら、互いの動きを把握しながら、<u>全体の動きや流れを把握して活動することを特にだいじにしていきます！！</u></p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（各自が主体的に動いていく活動のプロセスを評価します。）</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 村田 務
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1 保育活動における健康問題について理解を深めるとともに、それらの健康問題を解決するための効果的な方法について、文献研究や質問紙調査等を通して習得させる。</p> <p>2 子どもの健康を守り育てるために必要な保健指導の方法について理解するとともに、健康保育の問題について研究するための方法を身につけさせる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 専門誌「小児保健研究」「学校保健研究」「健康教室」「保健の科学」等 辻 新六、有馬昌宏：アンケート調査の方法、朝倉書店、1987年。</p>	
授 業 計 画	
<p>「今日、子どもや保育者には、どのような健康問題があるのか」、「それらの問題を解決するためには、どうすればよいのか」について、より具体的、実践的に学ぶ。</p> <p>まず、①関心ある健康問題についてレポートしたり意見を出し合いながら、子どもや保育者の健康問題について概括する。次に、②これらの健康問題の原因について明らかにしたり、解決するための方法について研究論文を検討しながら理解する。そして、③文献講読で不明であったことや疑問に思ったことについて、質問紙調査や実験等を実施して体験的に明かにする。最後に、④一連の学習や研究の成果をもとに、テーマとした健康問題の解決策や対処法について考察するとともに、子どもへの指導法について検討して教材を作成する。</p> <p>1、今日の健康問題を理解する・・・・・・・・個人レポートの発表 2、健康学研究の方法を知る・・・・・・・・研究論文の講読と検討 3、ゼミ研究の共通テーマを決める 〔過去のゼミテーマ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児のアトピー性皮膚炎 ・保育者のエイズへの意識と対応 ・保育者のストレス状態とその背景 ・学生の月経痛の状況とその対処法 ・肥満とダイエット ・ダイオキシンと母乳 ・足の健康問題と健康的な足づくり <p>4、研究テーマに関する事項について文献講読する 5、文献研究で分からなかった事項について、質問紙調査や実験等を実施する 6、健康問題の解決と教材づくり及び模擬指導の体験</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>研究レポートや集団討議への活動意欲と努力</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 師岡章
【開講期】 2年前期・後期	
【授業目標】 1. 子どもの遊びを重視する保育実践の在り方を考える。 2. 確かな保育実践を展開する上で必要な専門的力量について考察する。 3. 問うこと、調べること、わかること、の楽しさを味わう。	
【テキスト】	
【参考書】 授業時に適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">〔子どもの遊びを重視する保育実践の在り方を考える〕</p> <p>保育において遊びを重視することは自明のことである。しかし、実際にはそれがスローガンに終わり、真に遊びを中心とした保育実践が展開されているとは言い難い状況がある。未来の保育者にはこうした現状を改善していく視点と力量を身につけていくことが求められている。</p> <p>そこでゼミナールⅡでは、以下に上げる内容を通して、子どもの遊びを重視した保育実践の在り方について考察したい。</p> <p>① 保育実践をめぐる現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の子どもの育ちと課題を探る ・幼稚園教育要領及び保育所保育指針の改訂内容を考える ・多様化する保育実践の問題点を探る <p>②子どもの遊びを重視した保育実践の在り方を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナールⅠでの学びを基に、各自が関心を持つ研究テーマを出し合う。 ・討論を通して、テーマを絞り、自主的に調べた内容をまとめていく。 	
【評価方法】 ゼミ活動への参加姿勢と研究テーマへの取り組み	

[授業科目名] ゼミナールⅡ	[担当者] 八木 紘一郎
[開講期] 2年前期・後期	
<p>[授業目標]</p> <p>このゼミナールでは、子どもの発想と表現を豊かに育むための効果的援助方法を身に付けることを目標にする。そのために必要な保育学生自身の発想・想像力・表現技術を磨く。</p>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>「想像力の発達」内田伸子著（サイエンス社）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p style="text-align: center;">目標を実現するための「遊びの造形研究」</p> <p>具体的な方法手段として、「造形的人形劇活動」いわば「できるかな」的な工作人形劇活動を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 身近な素材を加工していくプロセスそのものを劇にする＝たとえば、「小人のぼうけん」のような紙一枚で行う人形劇を通して、なぜかを考察していく。 2) 音楽・リズム・動きを総合的に扱う。 3) 絵本や昔話を創造的想像をめぐらしてアレンジする。 その際には、原作に関する分析考察を行いながら、上演意図について絞り込んでいく。 たとえば、「ももたろう」の背景について、なぜ3匹の動物が登場するのか？なぜ他の強そうな動物を連れて行かなかったか？サルや雉たちがきび団子で命をかけて「ももたろう」に加勢するのはなぜか？持ち帰った宝物はどうしたか？ももたろうは、その後どうしただろうか？などを考察しながら、この原作が意図しているメッセージは何か？などを分析し、自分たちはどう考えるか。どういうふうにか考えたいか。出かけていく季節は？もし夏だったら、もし秋だったら、冬だったら、ももは一つしか流れて来なかったのか？もしかしたら沢山流れてきたかもしれないなど創造的想像をめぐらす。そうしたなかから、子どもたちに何をさせ、何を考えさせ、何を伝えたいのかを検討しあい、表現として創作していく。 4) 上演活動に関する記録 後できちんと分析考察するために記録及びデータをとっていく。(映像・アンケートなど) 5) 上演の意味・意義に関する考察 上演した人形劇を通して、見る子どもたちや、保育にどう役立つのかなどについて保育現場と連携して考察して、保育に役立つように検討していく。 6) 企画準備から運営・上演・まとめまでの一連の活動を通して、「創造的想像」を実現させる組織的活動の運営調整方法を学ぶ。保育現場における多様かつ複雑な保育環境状況のなかで、個性を生かしあう場としてアート活動のコーディネートとの必要性和具体的な対策技術を習得できるようにしていく。 	
<p>[評価方法]</p> <p style="text-align: center;">平常点</p>	

【授業科目】 ゼミナールII	【担当者】 吉川研二
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>自然界には模範解答のない問題がたくさんある。自然の事物や現象に関心を持ち、自然の意外性や美しさに触れ、発見する楽しさを知り、自らの考えを論理的に展開する姿勢を養う。今年度のテーマは生物季節。</p>	
<p>【テキスト】 「小さな自然観察」 平凡社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】 生物季節学、動植物の図鑑など</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>日本は亜寒帯から亜熱帯までと幅広い気候帯を有し、複雑で豊かな自然に恵まれている。それは南北2千メートルに及ぶ列島と、海拔ゼロメートルの海辺から3千メートルの山々まで至る複雑な地形とによってもたらされている。</p> <p>この豊かな自然のおかげで、季節の移り変わりとともに、植物の開花・結実・落葉や昆虫の産卵・羽化、鳥たちの渡り・繁殖など動植物の様々な現象を見ることができる。科学的視点を持って身の周りの自然の移ろいを深く感じ取る1年としたい。</p>	
<p>【評価方法】 平常点+レポートなど</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児の身体表現やリズムカルな身体活動について文献の精読、レポートを書く、報告、討論、研究の方法の習得により、理解を深め、グループ研究を行う。 2 動きの追求を行い、表現力豊かに動け、子どもと共に動くことを楽しめる保育者になることをめざす。 3 集団学習や共同作業を通して企画力、創造力、実行力を養う。 	
<p>【テキスト】 若松美恵子 「動きのリズム指導の現状と問題点」 舞踊学第2号, 舞踊学会 若松美恵子 「保育の中の運動あそび」 萌文書林</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期は1年で学んだ、手あそび、フォークダンス、リトミック、身体表現に関する基礎知識の上に、学生自身の興味、関心、疑問等から研究テーマを見出し研究を進めると共に学生自身が自信をもって動け、楽しんで身体で表現できるようにする</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 先行研究の精読 ② 研究テーマ、方法の決定及び研究の推進 ③ 学生自身の選んだテーマで身体表現活動 ④ 手あそび、フォークダンス、リトミック、身体表現の模擬指導 <p>後期は身体表現活動と研究活動をそれぞれ発表会へと推進する</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 身体表現（ダンス）を文化祭で発表する ② 幼児の身体表現やリズムカルな身体活動に関する研究を進め、ゼミナール研究発表会で発表する <p>過去の主な研究テーマ</p> <p>4歳児、5歳児の身体表現の指導のあり方 幼稚園、保育園における手あそび、フォークダンスの指導</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミナールの全ての活動を通して評価する。</p>	

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】小松 歩・師岡 章・船津秋子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次の「見学・観察実習」をふまえて、2年次は、3週間にわたる実習で、幼稚園教育に参加する。今回は、実際に指導計画案を立てて、指導の実際を体験する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書：「幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう」 萌文書林 阿部明子・岡本富郎 ほか 著</p>	
授 業 計 画	
<p>2年次の実習は、「参加・指導実習」という段階の実習である。 この実習で、幼稚園教育に参加し、自分で1日ないし2日の仮の担任になって指導実習を体験する。</p> <p>【2年次】 参加・指導実習のテーマ</p> <p>1週目 ・ 保育計画の流れと関係させて指導を理解する。 ・ 子どもの遊び場を主に観察する。</p> <p>2週目 ・ 指導に部分参加（指導計画案の作成） ・ 子どもの遊びや活動を、発達・生活・保育内容との関わりで理解する。</p> <p>3週目 ・ 子どもと園生活全体を見通す総合的理解と全日指導</p> <p>今回はとくに、「指導計画」を立案することが求められるので、そのためのオリエンテーションを特別に設ける。 2年次のオリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 参加・指導実習とは（全般的説明） ② 遊びへの関わり方 ③ 実技（絵本・童話・手遊び） ④ 指導計画の立て方 ⑤ 教材研究（指導実習に向けてのアイデア） 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学内オリエンテーションへの出席／受講状況 ② 実習日誌 ③ 実習中の出欠席 ④ 学内反省会 <p style="text-align: right;">などを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導（保育所実習Ⅱ）	【担当者】 鈴木佐喜子・佐野英司・船津秋子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>事前指導として、実習の目的・意義・テーマ、保育所における子どもの活動と指導計画、指導法、指導案の立て方などについて学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価・指導を受ける。</p>	
【テキスト】	
授 業 計 画	
<p>今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変わる場合もある。</p> <p>《実習前》</p> <p>I. 講義 「保育所実習Ⅱ」のすすめ方と実習日誌の書き方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育所実習Ⅱ」の目標と内容 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの活動と保育者の指導法について学ぶ <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもになじみ、そのあそび、生活を体験しながら学ぶ 2) 保育者の指導内容・方法について学ぶ 3) 指導計画案を作成して指導実習を行う 2. 指導案・指導法 <ul style="list-style-type: none"> 指導実習を通して指導案の立て方・指導法について学ぶ 幼児の指導案・指導法は「幼稚園実習」「保育計画法」で学ぶ 乳児の生活に関わる部分の講義は「乳児保育」「小児栄養実習」などで扱う 3. 実習日誌の書き方 <p>II. 講義 保育所における子どものあそびと指導計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳以上児の生活・あそびと指導計画 2. 3歳未満児の生活・あそびと指導計画 <p>III. 講義 保育所におけるあそび指導の実際 — 乳児を中心に —</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育環境の設定 2. 年齢別のあそびと指導計画 <p>VI. 実習日誌の提出・点検・指導</p> <p>実習期間 9月10日（月）～9月21日（金）</p> <p><実習後></p> <p>V. 実習を振り返って（反省会）</p> <p>各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をゼミ単位で実施</p> <p>VI. 実習日誌の提出・点検・指導 個別面接</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="padding-left: 40px;">平常点</p>	

【授業科目】 保育所実習Ⅱ	【担当者】 鈴木佐喜子・佐野英司・船津秋子
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次の「保育所実習Ⅱ」の学習を土台に、乳幼児の生活、あそびなどに関するより高度な観察、理解を深めるとともに、保育者の子どもへの対応、指導課程、指導法などに学び、指導案をたてて実習を行う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携</p>	
授 業 計 画	
<p>2年次の「保育所実習Ⅱ」は「施設実習Ⅱ」との選択必修科目である。 「保育所実習Ⅱ」は1年次の「保育所実習Ⅰ」に継続し、原則として同じ園で行う。今年度は9月10日（月）から9月21日（金）の10日間で行われる。1年次の「保育所実習Ⅰ」、1・2年次の「幼稚園実習」を終え、「保育所実習Ⅱ」では保育に助手的な立場で参加する中で、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育への理解をさらに深める 2) 配属クラスで指導の実際と方法を学ぶ 3) 実習指導期間の後半を中心に、指導案を立てて指導実習を行う <p>指導実習は配属クラスの子どもの年齢や実習園の実情に応じて実施する なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学内オリエンテーション（実習指導）への出席／受講・実習日誌の記録 実習中の出欠席・学内反省会などを総合して評価</p>	

【授業科目名】 実習指導（施設実習Ⅰ・Ⅱ）	【担当者】 中山正雄・近藤正樹・船津秋子
【開講期】 2年前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>児童養護施設、精神薄弱児施設（保育所を除く）での保育実習は保育士資格取得のための必修科目である。事前指導では、養護系・障害系に大別して基本的事項や、各施設別の指導・現状・課題等について学ぶ。実習では児童や職員との人間的なふれあいの中で施設養護の実際を知る。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「実習ガイドブック」「実習日誌」必携 テキスト：大島恭二他編 新保育講座『保育実習』ミネルヴァ書房</p>	
授 業 計 画	
<p>児童養護施設や精神薄弱児施設など保育所以外の児童福祉施設には、さまざまな環境・立場で生活している児童や障害児・者が生活している。そこでの実習は、単に保育士資格の必修科目であるというだけで無く、保育者を目指す諸君の人間観、児童観児童養護観、保育者像を検証し、確立していくことの第一歩となろう。なお、施設保育士を目指す者には選択実習（施設実習Ⅱ）も用意されている。</p> <p>施設実習Ⅰ・Ⅱで養護系、障害系の両方の実習を経験し学ぶのが好ましい。今年度の実習指導は、以下のスケジュールで実施の予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> (1)施設実習を行うに当たって、施設全般についての理解を深める。 (2)養護系と障害系にわけ、それぞれの施設に関する基本的事項を概説する。 また、次の様な課題を課す。 <ol style="list-style-type: none"> ①実習先施設に関する基本的文献の読後感想文。 ②福祉六法や実習指導室の資料を用い、各自の実習先の施設について概要等を調べる。 ③自らの実習課題や抱負を明らかにする。 2. 制度オリエンテーション 障害系施設では、障害者の権利保障に至る過程とその体系について概説し、障害児・者福祉の独自の役割を学ぶ。養護系施設では、養護問題の推移、家庭養護に欠ける児童の権利保障の体系を学ぶ。その上で、福祉制度における各種施設の役割について学ぶ。 3. 処遇オリエンテーション 施設における生活の実際や、職員のかかわり方、養護児童や障害児などの特徴や実習における留意点などを現場の方に説明してもらう。 4. 事後の指導として反省会を行い、討論、まとめ、レポートの作成を行う。 夏実習は実習者を集めて担当教員が行うが、秋実習は各ゼミ担当のもとで行う。 	
<p>【評価方法】</p> <p>学内オリ（実習指導）への出席、受講、日誌の記載、実習の態度、反省会等を総合</p>	

【授業科目名】施設実習Ⅰ	【担当者】中山正雄・近藤正樹・船津秋子
【開講期】2年後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童養護施設、精神薄弱児施設など各種の児童福祉施設（生活施設で保育所など通園施設は除く）において、施設における保育士の援助の実際を学ぶこの実習は保育士資格取得の為の必修科目である。 2. 児童福祉施設における実習を進める為の、各種施設の基本的理解、施設の子どもの現状、援助の実際、課題について学ぶ。 3. 養護系と障害系に大別し、児童福祉施設の役割や職員の姿勢、援助の実際を学ぶ中で、福祉・保育に携わるものとして人間的なふれあいの大切さを学ぶ。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「実習ガイドブック」「実習日誌」必携 テキスト：大島恭二他編、新保育講座『保育実習』ミネルヴァ書房 参考文献：授業の中で順次紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>施設実習は、児童の生活施設での実習であり24時間体制の施設で行う。 今年度は10月31日～11月10日日の11日間を予定している。この間に10日間の実習を行うことになる。 その多くが施設内の宿舎に泊まり込んで行うものである。施設実習は入居者のプライバシーにふれることになり、現場を知ると同時に責任の重さを実感できる場である。 なお、施設の都合により日程、実習の条件はさまざまであり、上記の期間以外の期間に実施する場合、また、14日間の実習を基準として設定している施設もあるので配属に従って行うことになる。 更に、実習先施設の確保という点から遠方の施設も多い。事前のオリエンテーションや実習の為に交通費など各自の負担となる。配属先により不平等が生じるがやむおえないので、特別な事情がある場合を除き配属に従って行うこととなる。</p> <p>参考文献の中から最低1冊は読了し感想文を提出することとなる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学内オリ（実習指導）への出席、受講、日誌の記載、実習の態度、反省会等を総合</p>	

【授業科目名】施設実習Ⅱ

【担当者】中山正雄・近藤正樹・船津秋子

【開講期】2年前期

【授業目標】

1. 児童養護施設、精神薄弱児施設など各種の児童福祉施設（生活施設で保育所など通園施設は除く）において、施設における保育士の援助の実際を学ぶ。
2. 児童福祉施設における実習を進める為の、各種施設の基本的理解、施設の子どもの現状、援助の実際、課題について学ぶ。
3. 養護系と障害系に大別し、児童福祉施設の役割や職員の姿勢、援助の実際を学ぶ中で、福祉・保育に携わるものとして人間的なふれあいの大切さを学ぶ。

【テキスト・参考書】

「実習ガイドブック」「実習日誌」必携

テキスト：大島恭二他編、新保育講座『保育実習』ミネルヴァ書房

参考文献：授業の中で順次紹介する

授 業 計 画

施設実習Ⅱは、児童の生活・及び通所施設で習で行う。

今年度は8月17日～27日の11日間を予定している。この間に10日間の実習を行うことになる。

施設実習は入居者のプライバシーにふれることになり、現場を知ると同時に責任の重さを実感できる場である。

なお、施設の都合により日程、実習の条件はさまざまであり、上記の期間以外の期間に実施する場合、また、14日間の実習を基準として設定している施設もあるので配属に従って行うことになる。

更に、実習先施設の確保という点から遠方の施設も多い。事前のオリエンテーションや実習の為の交通費など各自の負担となる。配属先により不平等が生じるがやむおえないので、特別な事情がある場合を除き配属に従って行うこととなる。

参考文献の中から最低1冊は読了し感想文を提出することとなる。

【評価方法】

学内オリ（実習指導）への出席、受講、日誌の記載、実習の態度、反省会等を総合

学籍番号・

氏名・

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

教務課 042(346)5619